

The background of the entire page is an isometric illustration of a city. It features various buildings of different heights and colors (white, blue, yellow), green trees, a blue car, a white van, a yellow forklift, a person with a cart, two people in suits, and two cyclists. The scene is set on a light blue grid pattern.

# INNOVATION & ACTION

INOAC CORPORATION

## CSR REPORT 2024

CSRレポート

## CONTENTS

### 01 企業理念

#### イントロダクション

### 02 イノアックの歩み

### 03 製品紹介

### 04 社長メッセージ

#### 特集

### 08 白馬での地域密着事業

### 11 グローバル展開を目指した取り組み

#### 環境

### 13 環境

#### 社会

### 20 価値向上のために

### 24 価値向上を実践するひとづくり

### 27 サプライチェーンマネジメント

### 28 社会とのコミュニケーション

#### ガバナンス

### 29 ガバナンス

#### データ集

### 31 ESGデータ集

### 35 会社概要

#### 編集方針

##### ◎報告期間

本報告書は株式会社イノアックコーポレーションにおける2023年度(2023年1月1日～12月31日)の活動実績をもとに作成しています

※2022年度とそれ以前、2024年度の内容も一部含む

##### ◎対象範囲

株式会社イノアックコーポレーション単体の活動を中心に、一部国内外イノアックグループ会社を含む

##### ◎参考としたガイドライン

GRIスタンダード

発行年月:2024年11月



## 企業理念

一本の大きな木を育てるより、  
多くの個性ある木を育て、  
美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、ひとつの事業に特化することなく、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合材という4つの苗をもとに、多くの事業(=木)を育て、企業体として多彩な製品、サービスを作り出し、社会へ貢献してまいりました。イノアックはこれからも多くの個性ある木を育てることで、時代のニーズにお応えしていきます。

お問い合わせ先

株式会社 **イノアック コーポレーション**

経営企画本部 広報部

〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号 大崎ウエストシティビル4階  
TEL: 03-6680-8168 E-mail: csr@inoac.co.jp <https://www.inoac.co.jp/>



## イノアックの歩み

# 快適な暮らしと持続可能な社会のために 発泡技術のリーディングカンパニーとして成長

1926年の創業以来、日本初のウレタンフォームの生産をはじめ、

人々の暮らしを豊かにする多彩な製品、サービスを創り出してまいりました。

イノアックの成長は、開発の歴史でもあります。新しい用途への応用を数多く生み出すとともに、

特に近年では環境への配慮を重視した開発を常に心がけて、人と地球の未来のために挑戦を続けています。

## 事業発展の 歴史

### Business Development History



●「井上護膜工業株式会社」の前身である「井上護膜製造所」を名古屋市熱田区に設立(1926年)

●IRCブランドのタイヤ・チューブの輸出を開始

●ドイツよりウレタンフォームの技術を導入(1954年)

●「エム・テー・ピー化成株式会社」を設立

●自動車部品事業へ進出

●寝装品・育児用品分野へ進出

●スリランカに海外初の合弁会社、「ASSOCIATED RUBBER INDUSTRIES LTD.」を設立

●配管材分野へ進出



●生活用品分野へ進出



●家具分野へ進出

●物流資材分野へ進出

●粧材分野へ本格的に進出

●東南アジアへの進出を本格化

●「井上エムテーピー株式会社」を設立(1980年)

●建材分野へ進出

●OA分野へ進出



●包装材料分野へ進出

●アメリカへの進出を本格化



●「株式会社イノアックコーポレーション」へ社名変更(1990年)

●福祉・介護用品分野へ進出

●中国への進出を本格化



●環境事業分野へ進出

●東南アジア拠点の強化および拡張

●一般社団法人「ポリウレタン国際技術振興財団」を設立



●ウレタンフォーム生産開始60周年を記念して、「ポリウレタン国際フォーラム2015」を開催



●グループ初の沖縄の会社として「株式会社イノアック琉球」を設立



●愛知県名古屋市に神野R&Dセンターを設立



●名古屋本社を増築し新社屋を設立



●全国の事業所内を中心に寝具等の直営ショップをオープン



●2023年に第5回ポリウレタン国際フォーラムを開催

1920

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2020

2024

## 製品開発の 歴史

### Product Development History



▶日本で初めてウレタンフォームを生産開始  
▶カラーフォームマットレスの販売開始



▶タンカー・新幹線車両の現場施工での断熱工事を実施



▶INJ-BLOW工法と加飾技術による化粧品容器の開発



▶インモールドコート(二層)一体成形インパネを開発



▶道路建設現場での発泡ウレタンR-PUR工法を開発



▶環境に優しい連続気泡微細セルポリオレフィンフォーム「MAPS」生産



▶超臨界発泡法を使用したクリーンな長尺ポリオレフィンフォーム「FOLEC」の生産



▶環境に優しい超微細セル無黄変薄物長尺シート「PureCell」の生産



▶植物由来のポリウレタンフォーム「ECOLOCEL」を開発



▶高性能複合断熱材の「フレキシブルエアロゲル」を開発

## 製品紹介

## 今もこれからも、豊かな暮らしのすぐそばに

家庭内での生活用品や介護用品、日常的に使うIT機器から工場などの産業機械に。住宅・建築の資材や土木の現場にも。自動車などの乗り物やインフラの設備にまで。イノアックの素材は姿を変えて、街のあらゆる場面に溶け込み、さまざまなフィールドで人々の快適な生活を支えています。



ドローン用プロペラ

クローラー  
パッド農機具用  
カバー

介護用品

電子機器用  
放熱材

車椅子タイヤ

不燃断熱材

食品トレイ

キッチン  
スポンジ

住宅用目地材

バイク・  
自転車タイヤサイクリング  
パッド自動車用  
内装部品アタッシュケース  
防振材

パソコン筐体

LCDバック  
クッションプリンター  
ローラー

インク吸収体

自動車用  
外装部品防水モバイル  
デバイス用止水材

インソール

ソファ

寝具

化粧用  
パフ化粧品用  
容器

工業用ダクト

蓄冷材

荷台等の  
車輪

梱包材

ヨガマット

スポーツ  
ブラカップ

## 社長メッセージ



## 「素材で暮らしを豊かにする」という 強い意志をもって、 チャレンジを続けていきます

株式会社イノアックコーポレーション  
代表取締役社長

野村 泰

### PROFILE

- |          |                               |         |                         |
|----------|-------------------------------|---------|-------------------------|
| 1985年 3月 | 井上エムテープ<br>(現イノアックコーポレーション)入社 | 2011年5月 | 自動車関連事業部統括(タイ駐在)        |
| 1991年 2月 | 北米駐在                          | 2015年2月 | 専務執行役員<br>自動車関連事業本部 本部長 |
| 2004年 2月 | 自動車関連事業部 技術部長                 | 2018年4月 | 取締役                     |
| 2007年10月 | 自動車関連事業部 品質保証本部長              | 2019年4月 | 常務取締役                   |
| 2008年10月 | 東北イノアック 代表取締役社長               | 2022年4月 | 代表取締役社長(現職)             |

## 社長メッセージ



## 社会背景の変革に先じた対応を

近年の新型コロナウイルス感染症、地政学的な問題は、社会・経済を大きく変えることになりました。こういったバリューチェーンの変動は、当社の事業の在り方についても大きな影響を及ぼしています。さらに、気候変動や生物多様性、人権等の問題に対する社会的な関心の高まりについても、事業戦略を考えるうえで、より真剣に検討してリスク対応を果たしていかなければなりません。

また、企業の不正や既存のサプライチェーンなど、社会全般の制度疲労とも考えられる事案もあり、当社としても必要な変革を推進し、今後の社会の在り方に貢献していくことが重要だと考えています。

こういった大きな変革期を迎えた現在において、躊躇なくあらゆる物事に挑戦していく気概が必要だと思っています。

## 「買う」「つくる」「売る」の進化

製造業の基本は、「買う」「つくる」「売る」という3つの機能をいかにバランス良く発揮するかという部分に変化はありませんが、それぞれにおいて検討すべき要因は複雑化しており網羅的なリスク対応が求められます。その先に「付加価値」を創造し、取引先や社会に提供することが重要です。

「つくる」については、現場のデータを客観的にリアル

タイムに把握し、業務に活かす必要があります。ファクトリーオートメーションやAIといった、いわゆるDXの適切な導入を図り、オペレーションの改善に取り組んでいます。マザー工場の一つでもある桜井工場ではすでに、あらゆる設備の稼働状況をモニタリングし、不良率や生産個数など、生産状況に係るリアルタイム情報の発信・蓄積、なんらかの異常の発生、もしくはその兆候に対するアラート、確度の高い原因究明につながる支援機能など、生産性や品質の向上に資するシステムを導入しており、資源効率、エネルギー効率の向上を含め、コスト削減を実現しています。今後はこれらのシステムを各拠点向けに調整しながら導入を進めていきます。

「買う」に関しては、資源採取からのサプライチェーン全般を事業内容や地理的要因も踏まえてグローバルな調達機能の構築を進めています。原材料、エネルギー価格の高騰や物流課題を包括的に検討し、原材料に近づく川上に位置する事業領域への展開も含めて、「つくる」における原価率低減にもつなげていけるようにしなければなりません。

「売る」については、取引先との関係性をより強固にしていくことも重要になります。各種製品のマーケットの状況は社会動向などによっても左右されてしまいます。自動車産業におけるEVをめぐる直近の動きなど、いち早く兆しをつかみ、取引先とも共有してさまざまな提案

## 社長メッセージ

を行っていくことも必要になっていくと考えています。

また、寝具・家具事業などBtoC領域においては、それぞれの地域ごとの文化や慣習などの生活様式も踏まえ、市場の変化をしっかりとらえて商品を提供することも必要となります。

## グローバル展開の進展

イノアックグループはアジアを中心に十数か国で事業を行っています。また、サプライヤーや取引先、最終製品のマーケットを考えると、グローバルな視点で事業戦略を考えていかなければなりません。

イノアックコーポレーションのパーパスは「素材で暮らしを豊かにする」です。このパーパスを実現するためには、法規制や生活環境、社会課題といったことも含めて、各国・地域の人々の暮らしを考慮することが重要です。これまで



社内表彰2023発表会の様子

のような汎用品の提供にとどまるビジネスモデルではなく、地域ごとの課題を直接的に解決に導く商品提供ができるよう、研究開発拠点を日本、中国、北米、タイに設置し、市場や取引先と密にコミュニケーションを図っています。

また、今後の発展に向けて、事業組織の再編にも着手しています。顧客との関連性から、自動車、産業資材といった事業軸でスピードを生かした事業運営が行えるようにし、寝具・家具などのリビング事業や断熱材などの建材事業については戦略事業と位置づけ、よりマーケットインの事業展開を図ります。事業内容のフローについても、ウレタン・ゴム・プラスチックを中心とした素材事業とそれに付加価値・市場価値を乗せる加工事業の2つの段階について明確化した運営ができる組織改革も進めています。

さらに、グローバル全体のマネジメントを最適化できるよう、本社の各機能の充実にも取り組んでいます。

これらグローバル展開を進めるうえで、人材というのも重要になります。給与体系の見直しや社内表彰制度の拡大や人材の育成にもより積極的に取り組み、新たな意欲ある人たちの採用も進めていきます。

社内表彰制度は、コロナの終息もあり、関係者が一堂に会したイベントとして実施しました。各国・各拠点でのさまざまな取り組みを称え、交流を深めることはグローバル展開を目指すイノアックグループにとって大変意義深いものとなったと感じています。従業員一人ひとりが、自分



で考え、行動に起こして結果を出している多くの事例が共有されました。このような取り組みを今後もグローバルで共有し、どんどんとスケールアップしていくように、働く社員の環境も整えていきたいと考えています。

## サステナビリティが中核となる世界

気候変動や生態系保全、化学物質管理、サーキュラーエコノミーといった環境課題は、机上での議論から実際のビジネスの現場での対応が強く要請され、適切な環境認識なくしてビジネスは回らない時代となっています。

素材を中心とした当社においては、ウレタン・ゴム・プラスチックに関するサーキュラーエコノミーを実現していく

## 社長メッセージ

ことも重要な使命だと考えています。再利用を前提としたマテリアルリサイクル、原料へ戻すケミカルリサイクル等、これまで培ってきた技術を用いてサーキュラーエコノミーの実現を目指します。ケミカルリサイクルについては、基本的な技術の開発、導入を迎えており、社会実装に向けた検証を進めていきます。

気候変動課題については、カーボンニュートラル委員会が中心となり、グローバル範囲での取り組みを進めています。より具体的な進捗管理や施策の検討を進めるよう、エネルギー、原料、物流、事業部の4部会を設置、自社でのマネジメントをより深化させてスコープ1・2の排出削減を進めています。スコープ3についても、サプライチェーンマネジメント等の進捗を踏まえ、社会的にもより明確化されてきたことから、情報把握、施策要請・サポート等を含めて、積極的な管理を進めていきます。

気候変動とも関連してより注目されるようになっている人権に関しても、トップステートメントを踏まえ、イノアックグループ内における人権側面の検証やサプライヤーにおける状況把握など、人権デューデリジェンスとしてのマネジメントを進めています。

サステナビリティは、当社だけの問題ではありません。真に持続可能な社会を実現するためには、さまざまなステークホルダーと協力し、社会そのものを変えていく必要性もあります。白馬村での取り組みは、当初の段階

から一歩進めて、より包括的・具体的な段階に移行しました。行政、諸団体組織、教育機関などとさまざまな協議、取り組みを進め、地方活性化に寄与できる変革を後押しできるよう、コミュニティ拠点の設置にも着手しました。「技術力、遊び、自然、経済」の観点で、在住者・来訪者にかかわらず、白馬村との関わりを模索して、協業できるモデルづくりを進めます。少子高齢化だけにとどまらず、カーボンニュートラル、生態系保全、サーキュラーエコノミー、シェアリングエコノミー、ダイバーシティ、都市化など、世界中のコミュニティ課題解決に寄与できるものと考えています。

### 百年単位を見据えた企業の在り方を考える

当社の前身である井上護謨製造所は1926年に設立され、間もなく100年になろうとしています。これからの100年を考えるにあたっては、一人ひとりの暮らしはもちろん、全てのステークホルダーにとっての価値を向上させていくことが重要だと思っています。そのためには、事業運営にあたっては、組織一丸となって理念に向けて取り組んでいくことが必要です。

「市場を知る、敵を知る、自分を知る」ことが、企業としても重要です。市場を知るというのは社会全体を理解しグローバルな動向を把握することになりますし、敵(競合)を知る

というのは、関係者とのパートナーシップを構築することにもなります。社内・社外との関係性をしっかりと保っていくためには自分自身のことを理解するように努めることも大切です。

「素材で暮らしを豊かにする」という覚悟をもち、常に前向きに明るくチャレンジし続けていく企業でありたいと思っております。これは、イノアックの社名の由来でもある、イノベーション&アクションにも共通する私たちの根本でもあります。社会のイノベーションを実現するために、日々の改善活動を継続しイノベーションにつなげていくといったサイクルをしっかりと進め「世界の、未来の、イノアック」であり続けていきます。



## 特集 | 白馬での地域密着事業

## 白馬村プロジェクトはさらなる推進へ

白馬村プロジェクトは地域課題を解決し、  
サステナブルな社会の実現に向け、本格的に動き出しています

イノアックグループでは、持続可能な事業運営を推進し、地域と協業し、サステナブルな社会構築に取り組んでいます。白馬村プロジェクトは先進的な取り組みを模索し、あらゆる可能性をステークホルダーの皆様と実践していくことを目指しています。

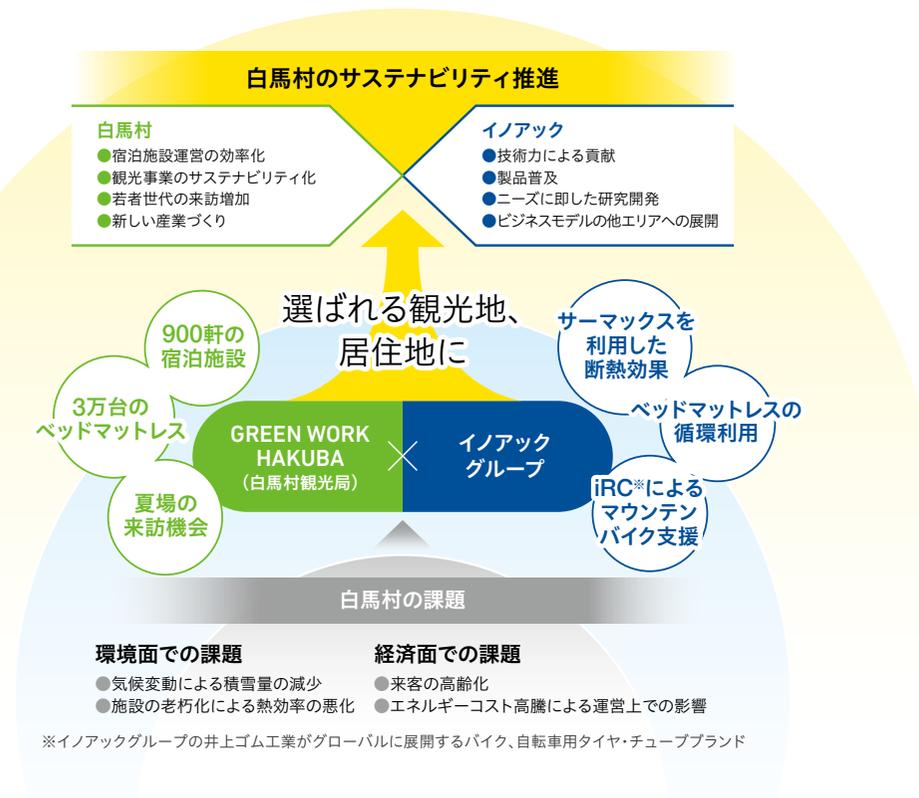
2022年12月に白馬村に事務所兼ショールームをオープンして以来、事業開拓を推進しつつ、行政や事業者をはじめ多くの方たちと交流を重ね、地域課題の解決に寄与する可能性を試してきました。

中でもイノアックがもつ素材や技術・製品(断熱材、健康寝具・捨てない寝具、旅行集客・海外移住者対応、村内企業の発展協働、グリーンシーズンスポーツの繁栄等)を活かした貢献と、そのための協業体制を整えることも重要と考え、より具現化してきています。

今後は、これまでの取り組みを踏まえ、地域社会におけるエコシステムを実装し、その中での新たなビジネスモデルの構築や拡大も課題となります。イノアックがもつ基盤的な素材や技術を用いて、より課題に密着した製品の提供も視野に入れ、推進していくことが必要です。

推進にあたって、イノアックとしての拠点の整備も必要と考えています。これは、地域の交流や白馬村を訪れる人も交流ができ、その中でイノアックのことも理解していただけるような「場」としたい狙いがあるためです。

さまざまな人たちが行きかい、交流を深めることで白馬村としてのサステナビリティ推進もより一層進展するものと期待しています。



### 断熱材「サーマックス」の提供 「断熱ワークショップ」の展開

これまでの  
主な取り組み

白馬南小学校校舎の断熱ワークショップを皮切りに、白馬高校、白馬インターナショナルスクールへ「サーマックス」を提供しました。断熱性能の有効性を確認いただき、エネルギー利用の削減に貢献しました。

### マットレスの開発 カラーフォームHAKUBAマットレス



白馬オリジナルマットレスの製作を行いました。ベッドカバーの上面はペットボトルなどのリサイクル素材を一部使用し、マットレス本体の中層には「ECOLOCCEL」(植物由来原料30%以上配合)、下層には「ミクセル<sup>※</sup>」を使用しています。カバーには白馬の山並みも再現しました。

### 夏季イベントの 開催、共催



四季を通じた観光を目指し、夏季の白馬の魅力体験していただく機会創出。

- オートバイのツーリングイベント開催
- 自転車のグラベルイベント開催
- 白馬村MTBイベント協賛
- 「JOCジュニアオリンピックカップ」参加
- 白馬MTBクラブ所属の原つばき選手のサポート

### 「GREEN WORK HAKUBA」 への貢献

白馬村観光局の取り組みへの参画を通じて、サーキュラーエコノミー構築に寄与。

※生産工程から排出された端材スポンジを粉碎し、蒸気と糊で固めたりサイクルウレタンフォームです。

# 新たな拠点づくりに向けて

白馬村プロジェクトでは、新たな拠点づくりを進め、持続可能な社会の実装に邁進します。  
新たな拠点の全体設計を依頼している太幡様をお招きし、拠点への思いを語っていただきました。

## 拠点づくりに向けた経緯

**煙山** 現地で一人ひとりの課題をお伺いし、イノアックとしてお手伝いできる領域とイノアックだけでは解決できない領域など課題の本質にも触れ、多くのつながりをつくってきましたが、もっと有効に交流を図ることの重要性を切に感じています。

**神谷** 準備期間を含めると白馬とイノアックの関わりは3年目に入ろうとしています。これまで実施してきたさまざまな取り組みから、より本格的な活動を推進するにあたり、拠点を整えることが必要だという認識をもつようになりました。

**柏崎** 当初は事務所としての使い勝手を良くするといったくらいの感覚でしたが、さまざまな関係者とのやり取りの中で新たな

拠点としてのコンセプトの重要性を考えるようになりました。構想として、豊かな森の中に白馬村の自然環境を活かした新たな拠点をつくることを検討中です。「森」はイノアックの企業理念ともつながります。それを空間や場所全体で考え、多くの人々にとって居心地の良い「場」となり、それが将来にわたって続くことも必要と考えています。

**太幡** 私は、以前から白馬村とはお付き合いがあり、電線の地中化など公共空間づくりに関わっていました。今回の拠点づくりにあたって、最初はプロジェクトに参画前の段階でプライベートな席でいろいろと話を交わしたことを覚えています。

## 拠点の具体的なコンセプト

**太幡** 専門として建築、公共空間などの領域に携わってきました。今回の拠点は一企業のためだけのものではなく、公共空間をもった企業施設としての意味合いがあり、企業が担う「公共的価値」を模索する大変チャレンジングなものです。

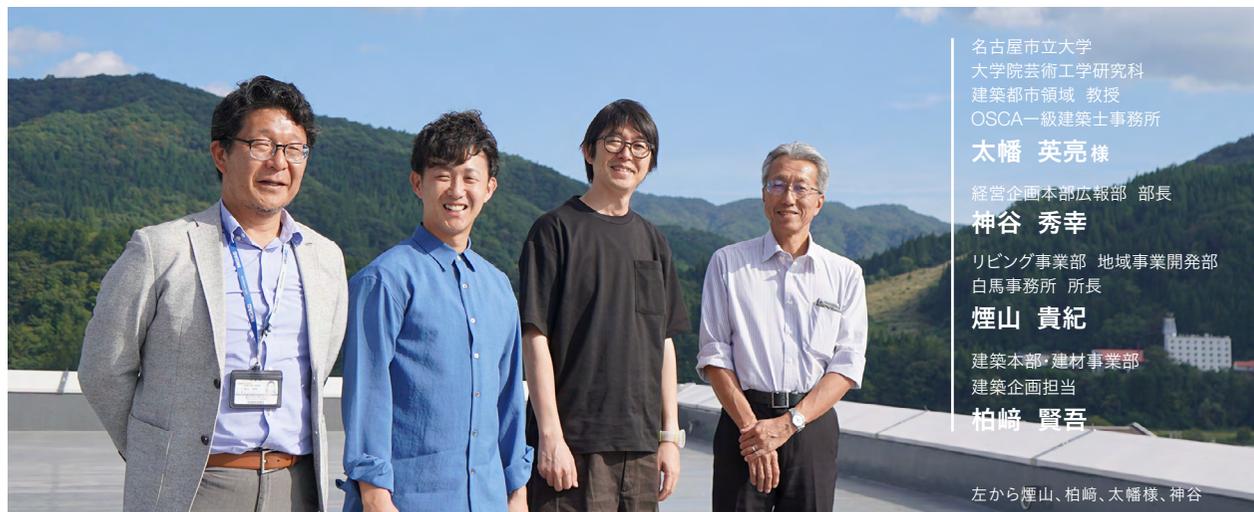
**神谷** イノアックはBtoBの企業という顔だけでなくBtoC領域も手がけており、多様なステークホルダーとの公共性も重要な観点になると思います。

**煙山** 地元の人だけでなく、観光客など老若男女が一息つけるような交流の場となることも大事にしたいポイントです。その中でイノアックに対しての気づきや白馬村への理解、親近感も深めてもらえるといいですね。

**柏崎** 太幡先生もおっしゃっていましたが、敷地全体としていく世代もつづく森のような役割をもった公共性もこれからはより重要になるかと思います。

**太幡** 今回の事業は公共性の高い事業で、イノアックにとっても、白馬村にとってもひいては日本の多くの地方にとっても重要な意味をもつものだと思っています。敷地内の空間設計は、多くの人が憩える森と建築のバランスを大切にしたいと思っています。そして、訪れた地域の方や観光客と企業の新しい関係、ひいては新しいライフスタイルが発見される場になるのではと期待しています。

**神谷** 白馬村では、ほかの地域以上にイノアックのことが知られるようになってきています。しっかりとした企業姿勢を示すことも必要かと考えています。



名古屋市立大学  
大学院芸術工学研究科  
建築都市領域 教授  
OSCA一級建築士事務所

太幡 英亮様

経営企画本部広報部 部長

神谷 秀幸

リビング事業部 地域事業開発部  
白馬事務所 所長

煙山 貴紀

建築本部・建材事業部  
建築企画担当

柏崎 賢吾

左から煙山、柏崎、太幡様、神谷

## 特集 | 白馬での地域密着事業

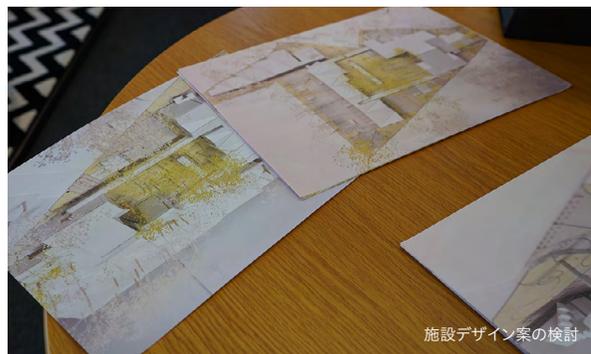
## 具体的な設計案として

**太幡** 白馬村の魅力でもある自然環境を大事にすることは必須です。敷地内の森を人が憩える程度に開きつつ、大きな樹木を最大限活かした設計にしていくことが重要です。また、今回の計画では、コミュニティの空間として中央に森の広場や散策路を設ける提案をしています。

**柏崎** 事務所、居住、交流といったゾーンが有機的に配置されることもイノアックの新たな拠点として重要。次世代型のビジネスモデルを生み出し、世界へ発信する場にもしたいです。

**神谷** イノアックの製品である断熱材など建築資材や家具などインテリアに自然と触れていただけるスペースを取り入れること。それらによりエネルギー効率など環境性能やバリアフリーといったことも必要だと考えています。

**煙山** 拠点ができた際には、イノアックとして、白馬村としての自慢の施設となるよう創り上げていきたいと思っています。



施設デザイン案の検討

## 白馬村観光における課題とイノアック

白馬村は観光の村。少子高齢化やインバウンドなど社会状況による観光業における課題とイノアックが関わる可能性について、地元の観光業に携わる皆様にお話をお伺いしました。

(株)五竜 代表取締役社長  
一般社団法人 白馬村観光局 代表理事

## 伊藤 英喜様

自然環境に恵まれた北アルプス・五竜岳の尾根から山麓にかけて、スキー場を開発。持続可能なリゾート運営を実現するため、2023年12月より運営する施設全体の電力を100%再生可能エネルギーへの切り替えを実施。

また、自然回帰活動の一環として白馬五竜高山植物園の運営も行っている。



観光は、リゾート施設だけでは成り立ちません。自治体や公共組織、インフラ整備など多様なステークホルダーが意識を合わせて調整を図り地域としての魅力を作り上げることが重要です。それぞれのリゾート施設が協力して白馬村としてのブランディングを考えられるようにしていきたいですね。

イノアックさんには断熱材やマットレス、家具等の製品はもちろんですが、グローバル企業として多様な人々や地域に向き合ってきた実績をここ白馬村でも活かしていただきたいと思います。

個々の組織は、自分の領域の情報も持っているものの、他との共有などが難しく例えばSDGsといった包括的な観点で物事をとらえて施策を実施するようなことはこれまでどうしても苦手となってきた部分があると思います。また、ここ白馬の観光業においても後継者課題が存在しています。地域の中だけでなく、良い意味での外部の視点をもってイノアックさんが関わることで、良い導き手となっていただけると嬉しいです。



(株)岩岳リゾート 代表取締役社長

## 星野 裕二様

白馬三山(白馬岳、杓子岳、白馬鍾ヶ岳)が最も美しく望める絶景スポットをはじめ、トレッキングやマウンテンバイク、ウィンタースポーツなど、特別な時間を過ごせるマウンテンリゾートを運営。

山頂エリアでのペットボトルの販売廃止や地産地消をコンセプトにしたメニュー提供など、持続可能な地域を実現する取り組みも積極的に行っている。

一般財団法人 白馬インターナショナルスクール 代表理事  
日本スキー場開発(株) 社外取締役

## 草本 朋子様

白馬インターナショナルスクールは、2022年9月に開校した中高一貫校。

未来の世界を見据えサステナビリティをテーマにしたプロジェクト型学習形式を取り、社会性と情動の学びや、自然環境の中で自己理解、ライフスキルや人間関係構築力などを磨くことのできるアウトドア活動など、3つの柱のカリキュラムがデザインされている。

2021年よりスキー場をはじめとした運営を行っている日本スキー場開発(株)の社外取締役に就任。



昔からの人や新たに白馬村に移ってきた人、高齢者と高校生など若い世代といった白馬村の中でも意識・意欲といったものに差があることも確かです。長期においては、滞在型であったり、国際会議の開催などより広い意味でのリゾートも目指したいところです。イノアックさんには企業を通じた情報の発信で観光視点では行きつかない人たちに届けていただいたり、地域性のあるビジネスモデルとしての構築にもか関わっていただきたいと思います。

## 特集 | グローバル展開を目指した取り組み

## 社内表彰制度による従業員エンゲージメント

世界各地の従業員がイノアックグループの一員であることを強く認識し、誇りをもって働ける環境づくりの一環として「社内表彰」制度を設けています。

社内表彰とは、年に一度、イノアックグループの功績を表彰する『顕彰』です。

業績を上げたり、特別な功績をおさめた会社・メンバー・チーム・部署などに贈る表彰となっています。

- 経営トップが直接社員を労う
- 社員のモチベーションアップ
- 会社への信頼感・愛社精神の向上

などの意義をもって執り行われています。

2023年度も世界各国から多くの自薦・他薦によるエントリーが行われ、優秀な事例に各賞が贈られました。

## 社内表彰 賞一覧

業績優良賞	現場力向上賞
新技術&パテント優秀賞	営業優秀賞
品質&生産準備優秀賞	カーボンニュートラル貢献賞
安全防災優秀賞	サステナビリティ貢献賞
調達優秀賞	ルーキー賞
デジタル推進賞*	長期功労賞*

\*2023年度からデジタル推進賞と長期功労賞が加わりました。

## 調達優秀賞

## グローバル拠点協同での原料原価低減活動

## 受賞会社

DONGGUAN INOAC POLYMER CO., LTD. (中国)

添加剤等の少量原料は各拠点での購入となっており、原価低減活動やBCP管理についても、各拠点での対応となっていました。関連する部門が一体となって管理することで、サプライチェーンマネジメントとしての有効性やコスト低減、BCP管理なども平準化されました。

## Member/

調達部門	グローバル調達部門、SIC <sup>※1</sup> 調達部門
工場部門	中国SVI <sup>※2</sup> 、中国DIP <sup>※3</sup> 、中国DIP2 <sup>※4</sup> 、ベトナムIVC <sup>※5</sup> 、スリランカIPL <sup>※6</sup> 、インドネシアPI <sup>※7</sup> 、タイITH <sup>※8</sup> の関連担当者

※1 SHANGHAI INOAC CORPORATIONの略称、※2 SHANGHAI INOAC POLYMER PRODUCTS CO., LTD.の略称、※3 DONGGUAN INOAC POLYMER CO., LTD.の略称、※4 DONGGUAN INOAC ELASTOMER PROCESSING CO., LTD.の略称、※5 INOAC VIETNAM CO., LTD.の略称、※6 INOAC POLYMER LANKA (PVT) LTD.の略称、※7 PT. INOAC POLYTECHNO INDONESIAの略称、※8 INOAC (THAILAND) CO., LTD.の略称



## 表彰理由

サプライヤーの評価などのマネジメントを部門ごとに実施していたことで重複していたことや増加するサプライヤーへの対応などの非効率性が解消された。

サプライヤーからの原料品質の管理において、一元化して基本的な品質評価を実施することで、全体としての評価工数を削減。また、原料切換における評価の効率化などにも寄与。

将来のサプライヤーマネジメントの発展への寄与

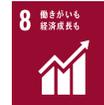
コスト削減効果 当初計画比105%

業務効率化による労働時間低減、エネルギー使用量低減等



## 特集 | グローバル展開を目指した取り組み

## 品質 &amp; 生産準備優秀賞



## スマートスタンダード活動 作業標準の向上に注力し、スマートオペレーションを実現

## 受賞会社

INOAC AUTOMOTIVE (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

工場内での作業フロー全体における効率化において、購買、品質、生産それぞれのチーム内で完結していた改善の取り組みを全体のフローとして整理することで、作業の標準化を進め、オペレーションの効率を上げることで生産効率の向上につながりました。

## Member /

品質管理(QC)・ 品質保証(QA) チーム	K.Thansinee T., K.Poonsak B., K.Wittaya P.
生産チーム	K.Passaworn, K.Nutthawut, K.Aphinan
購買チーム	K.Suradej, K.Kamolrat



## 表彰理由

チーム間での情報共有、教育の実施

オペレーション改善とレイアウト変更に伴う工場内  
原材料の生産効率の向上

関連廃棄物の削減(廃棄物発生量約20%低下)

業務効率化による労働時間低減、エネルギー使用量低減等

日本を見習った諸活動を現地メンバー中心に推進  
できている事を大きく評価

## 長期功労賞



## IHL設立 50周年を支えた活動

## 受賞者

INOAC HONG KONG LTD. (香港)  
Popo Fong さん

彼女は、INOAC HONG KONG LTD. (以下、IHL)の初の女性社員として1991年4月に入社、歴代の日本人社長をサポートし、現地従業員のまとめ役を担ってきました。

この間、中国各地での会社設立などのサポートや、SARS等の感染症流行時の従業員の健康管理などを行いました。企業運営だけでなく従業員の労働環境管理にも大きな貢献をしてきました。今年、IHLは無事設立50周年を迎えましたが、彼女のような会社を支える動きが表彰されるべきものとして賞が授与されました。



最前列:Popo Fongさん

## 環境

## 環境マネジメント

## ● 基本的な考え方

イノアックグループは、「地球環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、主体的に行動する」とあるように、社会に貢献する活動を実践する精神のもと地球環境保全に貢献し、持続可能な社会の構築を目指します。また、環境理念に基づき「環境と調和するテクノロジーと、環境を大切にする企業活動を通じて、かけがえのない地球の自然環境を尊重し、豊かで暮らしやすい社会の実現に貢献します。」環境方針を具現化するため、環境マネジメントシステムに基づき、事業活動における環境負荷・環境リスク低減に取り組むと共に、環境配慮型製品、環境規制対応技術の開発にも積極的に取り組んでいきます。

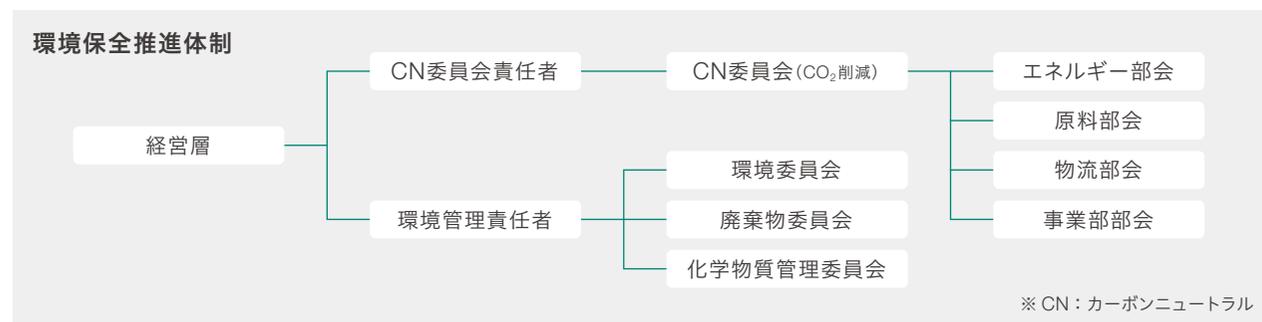
## 環境理念

イノアックグループは、環境と調和するテクノロジーと、環境を大切にする企業活動を通じて、かけがえのない地球の自然環境を尊重し、豊かで暮らしやすい社会の実現に貢献します。

## 環境方針

- ① 環境法規制等を順守し、コンプライアンスを徹底して社会に信頼される事業活動を行います。
- ② 脱炭素社会を実現し地球温暖化を防止するため、省エネなどのCO<sub>2</sub>排出の低減活動を推進します。
- ③ 循環型社会に貢献できるよう省資源・廃棄物削減・リサイクルの活動に積極的に取り組みます。
- ④ 環境影響の可能性がある化学物質を適切に管理し、リスクを抑えて環境保全を図ります。
- ⑤ 環境に優しい製品の開発を積極的に推進し、ライフサイクル全体に渡って自然環境の保護に貢献します。
- ⑥ 水資源の持続可能な利用のため、水の循環利用などにより使用量を削減する活動に取り組みます。
- ⑦ 環境マネジメントシステムを推進し、従業員の環境教育や環境監査を実施し継続的な改善を進めます。
- ⑧ 良き企業市民として、地域の環境保全活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献します。

## 環境保全推進体制



環境活動を組織的に推進するため、トップマネジメント直轄で上図のような環境保全推進体制をとっています。CO<sub>2</sub>排出量削減に関してはCN委員会責任者が統括管理をし、CN委員会の下部組織として4つの部会を設置しています。またそれ以外の環境活動に関しては、環境管理責任者が統括管理をしています。ここでは環境、廃棄物、化学物質の3つの委員会を設置しています。それぞれの委員会、部会においてミッション、KPIを明確化し活動をしています。各委員会、部会間でも連携を取りながら会社全体として環境マネジメントを推進します。

カーボンニュートラル (CN) 委員会	事業に関わる二酸化炭素排出を削減し、カーボンニュートラルを目指す施策を実施。
環境委員会	環境関連法規制を踏まえ、ISOやEMSなどの環境に関する施策を実施。
廃棄物委員会	事業活動で発生する各種廃棄物の管理を実施
化学物質管理委員会	国際的な規制動向を踏まえた化学物質管理を実施
エネルギー部会	スコープ1・2の低減を目指し、国内外の製造拠点を中心に使用するエネルギーの削減施策を推進。
原料部会	スコープ3 (カテゴリー1) の低減を目指し、原材料を中心にCO <sub>2</sub> 排出の削減を推進。
物流部会	自社が荷主の出荷物流に関わるCO <sub>2</sub> 削減策を推進。
事業部部会	事業部ごとに製品に関するカーボンフットプリントの削減策を包括的に推進

## 環境マネジメント

### ● 活動目標・実績

各委員会が中心となり、主要な取り組みに対して、定量的な目標を設定して活動を進めています。2023年度、CO<sub>2</sub>排出に関わるエネルギー使用量削減においては、生産量の増加などにより目標達成には至りませんでした。2024年度以降の目標に向けて、CO<sub>2</sub>削減活動を継続的に推進しています。

廃棄物、VOC、PRTR、取水量においても着実に環境負荷の低減に向けて進捗。法規制違反を含む環境事故も0件となりました。

### ● 環境法規制の遵守

イノアックグループでは環境法規制の遵守徹底に努めています。2023年度は、国内外の拠点における法令違反は0件でした。今後も環境事故ゼロを目指していきます。

各拠点の環境法令遵守の徹底に関して、日本国内においては、各拠点の環境担当者が年4回の環境委員会に参加して環境法令改定のすり合わせ、各拠点の自主的な点検の報告を行っています。また定期的にISO14001 EMSにて品質本部による国内拠点の法令遵守点検を行い、法令遵守状況を確認し、違反が起らないように努めています。

取り組み項目		2023年度活動目標	2023年度活動実績	2024年度活動目標	2030年度活動目標
エネルギー使用量削減(工場系)	CO <sub>2</sub> 排出量(t)	70,637以下	73,394	68,631	45,887
廃棄物削減(工場系)	処理量(t)	10,440以下	10,055	9,500	8,400
VOC対象物質の排出量削減	排出量(t) / 生産金額(百万円)	設定なし	1.82	1.81以下	1.30以下
PRTR対象物質排出移動量削減	排出・移動量(t) / 生産金額(百万円)	2.14以下	2.15	2.09以下	設定なし
取水量削減	取水量(千m <sup>3</sup> )	2,319以下	2,284	2,236	2,153
化学物質管理	グリーン調達規定の改定	新規性対応の継続	改訂無し	新規性対応の継続	新規性対応の継続
環境事故	重大事故、法令違反、苦情件数	0件	0件	0件	0件

### 事業活動における主な環境関連法規制

大気	大気汚染防止法、自動車NOx・PM法、ダイオキシン類対策特別措置法
水質・土壌	水質汚濁防止法、浄化槽法、下水道法、土壌汚染対策法
騒音・振動・悪臭	騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法
化学物質	化学物質排出把握管理促進法、毒物および劇物取締法
省資源・循環	省エネ法、容器包装リサイクル法、フロン排出抑制法、PCB処理特別措置法、廃棄物の処理および清掃に関する法律
防災	消防法、高圧ガス保安法
一般・その他	工場場地法、特定工場における公害防止組織の整備に関する法律(公害防止組織法)、電波法

※地方公共団体の条例などについては割愛  
※一部略称法にて表記

## 環境

## 環境マネジメント

## ● 内部環境監査

環境マネジメントシステム運用の状況をチェックするため、内部環境監査を実施しています。監査チームは社内規定された内部監査員研修を修了した2~3名でチームを編成し、環境マネジメントシステムの適切な運用、維持・向上が図られているかを確認しています。実施ガイダンスを作成したり、目標達成や法令遵守の取り組みを重視したチェックリストを随時見直すなど、監査レベルの向上を図っています。

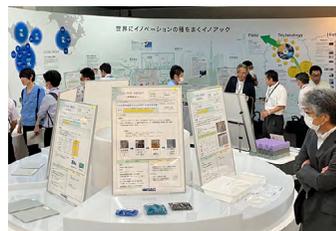
## ● 外部環境審査

環境マネジメントシステムの運用がISO14001:2015年版に従って適切に行われているか確認するため、社外の審査登録機関である一般財団法人 日本品質保証機構 (JQA) による審査を受けています。2024年9月に更新審査を受けており、指摘事項はなく登録が更新されました。また総合所見として、環境側面、遵守義務・評価、内部監査などのプロセスにおける課題があげられました。指摘のあった改善の機会に対して、順次対応を行っています。

## ● (教育・訓練)CN関連の研修会を実施

CN事務局は啓発活動として、2023年の新入社員を対象に研修会を実施、また従業員向けのウェビナーも開催、約250名が参加しました。

社内外向けのCN展示会も年2回開催し、延べ約400名の方が来展しました。



## ● 緊急事態の訓練

各事業所の特性に応じた事故・緊急事態の特定を行い、地震・火災や原料・油類の漏えいなど環境汚染の予防および拡大防止のため、定期的な訓練を実施しています。八名事業所(愛知県)では、毎年3月と11月に防災訓練(避難・消火)を行い、また製造部門において毎年10月にシナリオ変更して、原料流出防止訓練を実施しています。その他の事業所においても、それぞれ非常時・緊急時の訓練を行い、有事に備えています。



## 気候変動への取り組み

## ● 気候変動対応(スコープ1+2)

気候変動対応は社会的課題としてだけでなく、事業推進の上でも積極的に取り組まなければならない課題です。中でも自社のマネジメントによるスコープ1・2の低減は、2030年に2013年比▲50%の目標(国内総量)を掲げ、CN委員会が中心となり活動をしています。

具体的にはCO<sub>2</sub>削減目標値を事業部、事業所ごとに割付け、削減アイテム、削減効果、それに関わる投資額を見える化し、進捗管理を行っています。

CO<sub>2</sub>排出削減に向けての主要な施策は、エネルギー使用量を徹底して削減することです。生産技術プロセスの開発を含め、あらゆる省エネ活動を進めるため、「省エネスタンダード」として生産拠点における施策を一覧化し、各拠点においての進捗状況を把握するなど、効果的な施策の展開を進めています。

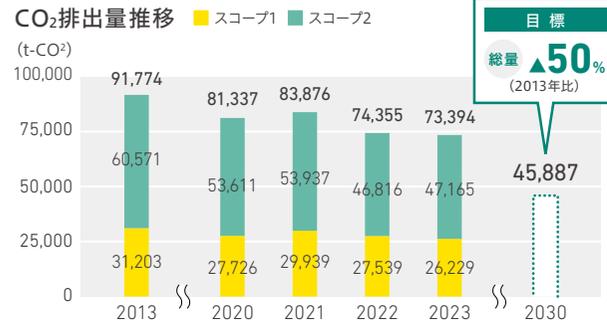
断熱施策、空調設備更新、加熱設備更新、照明設備更新など8つのカテゴリーを定め、具体的な施策リストを作成し、見直し・更新を行っています。さらに、原単位管理や工程内カーボンオフセットなど適切な管理手法の共有も図っています。

また、生産に関わるエネルギーをゼロにすることは非常に困難であることから、エネルギー源の変更や再生可能エネルギーの導入にも取り組んでいます。これらの総合的な施策を進めることで、2030年目標の確実な達成を目指しています。

海外ではその活動レベルにバラツキがあるため、まずは前年比▲3%の目標とし、省エネ活動の組織化、削減活動をお願いし、日本の活動の情報共有を積極的に行っています。

## 環境

## 気候変動への取り組み



## ● グループ会社の環境部材・システムの導入促進

当社グループ会社のイノアック住環境では省エネに貢献する部材や、地中熱利用によるシステムを扱っており、新しい社屋、工場には積極的にこれらを採用をして断熱効果を高め、省エネルギーを図っています。

## 地中熱利用空調・融雪



東北イノアック  
北上工場 (岩手県2007年)

## 地中熱利用融雪



北海道イノアック  
 (北海道2013・2019年)

## 地中熱利用空調



東北イノアック  
戸建・集合住宅  
(宮城県2015年)

## 地中熱利用空調



イノアック本社  
(名古屋市2017年)

## 地中熱利用空調・ZEB\*



イノアック築館工場  
(宮城県2018・2021年)

\*ZEB(ゼブ): Net Zero Energy Buildingの略称。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを指した建物のことです。

## ● エネルギー転換

工場での化石燃料の利用はオンサイトでのCO<sub>2</sub>排出につながることから、スコープ1の削減も踏まえ、エネルギー転換可能な設備の更新を進めています。

これまで原料保管庫の加温に利用していたLPGボイラーによる蒸気加温をヒートポンプに変更し、原料保管庫のLPG使用量をゼロとしました。電気使用量は増加しましたが、CO<sub>2</sub>排出量としては、約80%の削減となりました。

## LPGボイラー



## LPG使用量

約7,000kg/年

CO<sub>2</sub>排出量

約21トン/年

## ヒートポンプ



## 電気使用量

約7,800kwh/年

CO<sub>2</sub>排出量

約3.6トン/年

## 適正な化学物質の管理

## ● 基本的な考え方

イノアックグループは、製品の原材料や生産工程で使用する副資材にてさまざまな化学物質を使用しています。

化学物質は含有製品の廃棄や生産工程での漏えいや蒸発などで土壌、河川、大気汚染につながり、地球環境に悪影響を及ぼす可能性があります。

化学物質規制は欧米を中心に年々強化されています。使用する化学物質の選定や管理などの仕組み(グリーン調達基準)や従業員への教育にて適正な化学物質管理の取り組みを強化し、安全安心な製品づくりを進めています。

## ● サプライチェーンでの化学物質管理

イノアックグループでは、製品に含有する化学物質をサプライチェーンで管理しています。

法規制・取引先の基準に合った製品を納品するために、グリーン調達基準を基に製品設計・材料の調達・生産工程での製品に含有する化学物質の管理を行っています。

## ● 購入品の化学物質管理

原材料に含有する化学物質情報の把握ために、各種法規制などにより指定された化学物質や含有量を把握し削減に努めるべき化学物質などをリスト化したグリーン調達基準をお取引先様に提示し、原材料を購入します。

また常に最新の法規制動向に注視し、毎年1回の改定を行っています。

## ● 化学物質管理のコミュニケーション

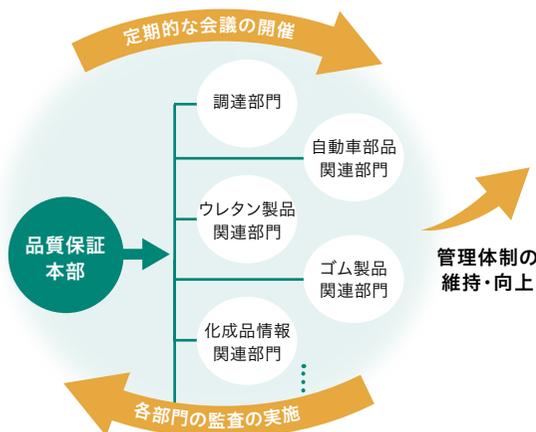
環境管理に関する全社組織である品質保証本部が主体

## 環境

## 適正な化学物質の管理

となり、2カ月に1回の頻度で各事業部の化学物質管理部門を招集して化学物質社内調整会議を開催、グリーン調達基準の見直し、管理体制の確認や、運用ルールの制定、REACH規制<sup>※</sup>やRoHS指令<sup>※</sup>などの化学物質規制の最新動向に関する意見交換などを行うとともに、定期的に各事業部に対して、管理体制の監査を実施。適切で確実な管理体制の維持・向上に努めています。

※REACH規制：欧州における化学物質登録と有害物質管理の規制  
 ※RoHS指令：欧州の電気・電子機器に含まれる特定有害物質の規制



## ● PRTR規制物質の管理

ウレタンフォームを製造する際に、m-トリレンジイソシアネートや、塗料中に含有するキシレンやトルエンなどのPRTR対象化学物質を使用しています。それらの対象化学物質の取り扱い量や排出・移動量の削減のために、発泡剤として一部残っているジクロロメタンの削減や塗装工程の改善・不良対策を進めました。2023年度のPRTR対象物質の排出量+移動量は2022年度に比べて

14%増加しましたが、原単位では2022年度に比べ6%減少しているため改善傾向にあります。

## PRTR(排出量+移動量)

(t/生産金額(百万円))



## ● 管理対象物質の制定と運用

イノアックグループは、化学物質情報を顧客へ正しく伝達するために欧州のELV指令<sup>※1</sup>、RoHS指令、REACH規則、国内法規制、GADSL<sup>※2</sup>、IEC62474<sup>※3</sup>を中心とした各国の法規制や、顧客からの要求事項をふまえた化学物質管理を行っています。

具体的には各部門の役割や管理運用方法を徹底し、安全安心な製品を提供しています。

※1 ELV指令：欧州(EU加盟国)における廃車規制 ※2 GADSL：自動車業界の国際的な管理物質 ※3 IEC62474：電気電子業界の国際的な管理物質

## ● 大気汚染物質削減の取り組み

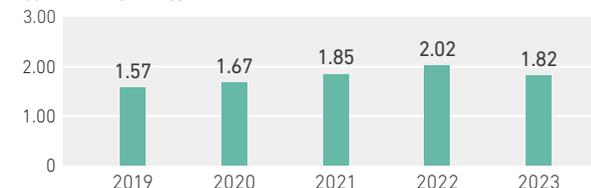
大気に排出されたVOCは太陽光の紫外線と反応し、光化学オキシダントや浮遊粒子状物質の原因となります。

使用する原材料のうち、自動車部品塗料、接着剤などに含まれるVOCは、乾燥とともに大気へ放出されます。

VOC削減に向け、塗着率を考慮した工法・工程開発、ジクロロメタンを用いないウレタン発泡技術の拡大などにより、VOCの使用量低減に努め、大気排出量の削減に取り組んでいます。

## VOC排出量

(t/生産金額(百万円))



## 事例

## ジクロロメタン全廃に向けた活動

一部のウレタン発泡工程で使用されているジクロロメタンの全廃を目標に改善を行っています。その代替として、CO<sub>2</sub>を利用したウレタン発泡技術を導入し、国内全拠点において設備導入が完了しました。CO<sub>2</sub>ウレタン発泡は、従来の発泡剤に比べて環境負荷が低く、温室効果ガスの排出を抑えることができます。また、CO<sub>2</sub>は安価で入手しやすいため、コスト面でもメリットがあります。



## オゾン層破壊物質の適正管理

オゾン層の保護、地球温暖化防止のため、フロン類の大気中への放出抑制や自然冷媒の採用を進めています。フロン排出抑制法に基づいた定期点検による運用管理、適正な廃棄回収をしています。今後も、計画的に機器更新を進め、フロン類の適切な管理に努めます。

## 循環型社会への貢献

### 基本的な考え方

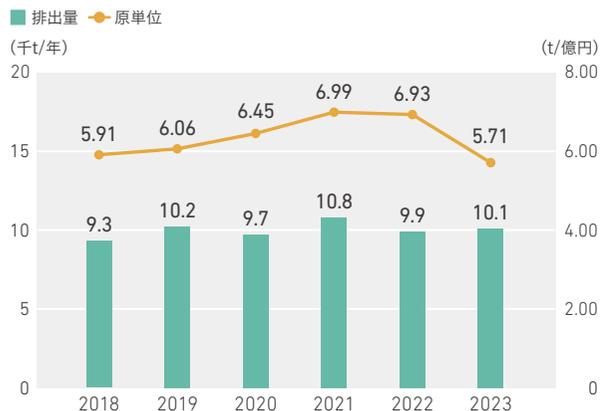
イノアックグループは、石油由来の原材料や各種化学物質などを使用しています。限りある資源の有効活用及び生産時や使用後に排出される廃棄物を削減して、適正な処理をし環境汚染を低減する活動を行っています。

これらの課題について従来から行っている3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動を発展させ、廃棄がない高度循環型(サーキュラーエコノミー)社会実現へ取り組んでいきます。

### 廃棄物削減の取り組み

イノアックグループ(国内)において2023年度の全廃棄物排出量の目標は達成しましたが、2022年度と比較して、若干増加となりました。ただし、不良低減や歩留まり改善活動、ゴム・樹脂材の再利用や有価物への転換、を継続的に進めたことで、原単位(単位生産金額当りの廃棄物排出量)は17%減少することができました。

#### 廃棄物(有価物除く)排出量、売上原単位



### リサイクルに向けた取り組み

資源循環において、リサイクルは大きな課題となっています。

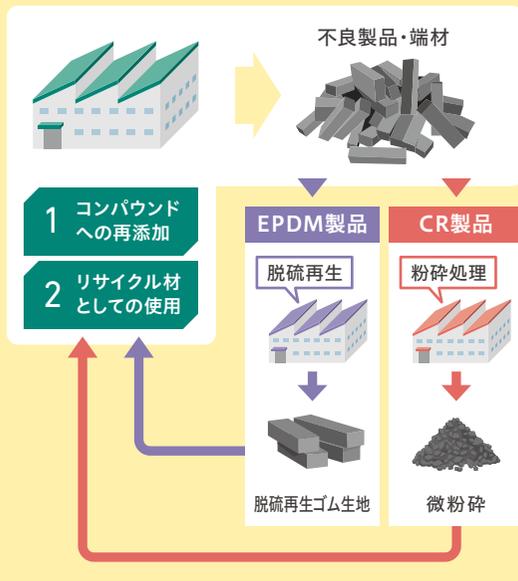
イノアックでは、自社製品に関わるリサイクル導入を図り、ウレタンフォームのケミカルリサイクル、ゴムにおけるマテリアルリサイクルなどの技術開発を進めています。

また、自治体等とも協力し使用済み製品の回収システムの構築にも取り組んでいます。

#### 事例

##### ゴムのマテリアルリサイクル

生産工程で発生する端材を粉砕/再生し、リサイクル材料として使用しています。



### 今後の課題と対応

イノアックグループは資源の有効利用を追求していきます。

具体的には生産工程からの排出物(廃棄物)を3R活動により削減するとともに、単純焼却処理や埋め立て処分を減らしていきます。

また廃棄物からケミカルリサイクル・マテリアルリサイクル・エネルギー回収の技術開発を進め、地球資源の有効利用を図っていきます。

サーキュラーエコノミーの実現に向け、再生可能な材料選定やリサイクルしやすい製品など、構造設計や生産工程の改善を進めていきます。

## 環境

## 水リスクへの対応

## ● 基本的な考え方

イノアックグループは、製品の製造時に使用する水やゴム、樹脂成型品の冷却、従業員の飲用などで大量の水を消費しており、水は重要な資源と認識しています。これらの課題に、生産工程改善やリサイクルによる水使用量の削減だけでなく、水リスクに対して「AQUEDUCT」を使用しリスクを想定し、ヒアリングを行い地域ごとのリスクを把握することで、事業活動の継続を目指していきます。

## ● 水使用量削減の取り組み

材料混練り機や押出機などの加工で発熱する設備の冷媒として、水を選択することが大半です。冷却時、水をかけ流しにすると際限無く水を使用してしまうため、G-HEX<sup>※</sup>、クーリングタワーなどを利用することで、吸熱した水を冷却し循環利用でき、大幅な節水に繋げるよう改善を進めています。

※G-HEX:当社グループ会社のイノアック住環境において販売している工場排水熱（工場の生産工程で排出される熱・温水・冷水等）を回収して再利用することができる樹脂製熱交換器です。また回収した冷温熱を、空調機などの熱源として再利用することが可能です。水循環システム化により取水量低減となります。

## ● 水リスクの把握と低減

水リスク評価ツール「AQUEDUCT」を用いて国内外の全ての生産拠点が位置する地域の水リスクを評価して、全ての製造拠点へのヒアリングを行い、水リスク調査を実施しています。

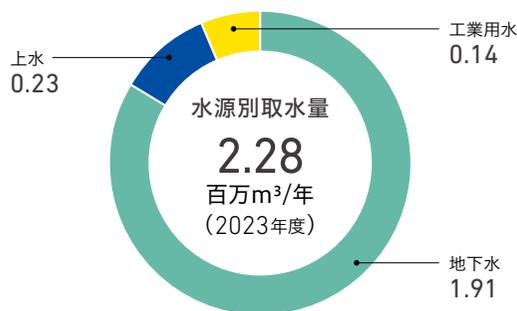
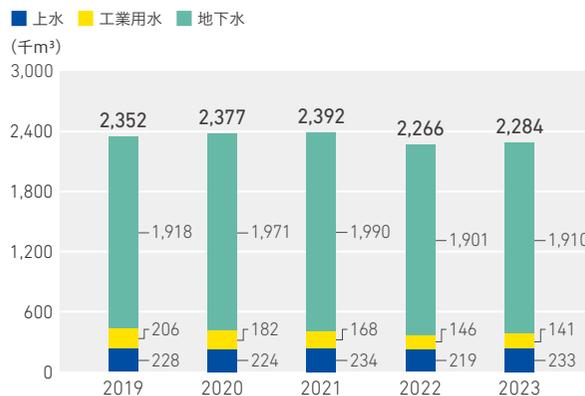
調査結果では、早急に対処すべき大きなリスクがある拠点は確認できませんでした。

今後は水資源の枯渇や水質悪化、洪水、規制の強化等

さまざまな水リスクに対する取り組みを強化していきます。

- 国内グループ会社では、水供給リスクに対応した持続可能な水資源利用を推進するために、水使用量および取水量の削減目標を設定して改善に取り組んでいます。
- 水関連の法規制などの規制リスクおよび排水のクリーン化のため、排水処理施設からの排水品質をモニタリングし排水管理に取り組んでいます。
- 豪雨や洪水等による浸水対策に対して、BCPの観点からも事業所別に改善に取り組んでいます。

## 取水量



## 事例

## 桜井工場水循環システム

水使用量の中でも大量の水を利用するのが塗装工程です。有機溶剤などを含む排水を適切に処理し、循環利用することで、取水量を99%以上削減しました。



## ● 今後の課題と対応

水リスク問題は人口増化に伴う水不足や、地球温暖化に伴う水害リスクの増大など地域ごとに異なるリスクがあり、グローバルに拠点がある当社にとって重要な課題です。

生産工程での節水や漏えいの防止などグローバルに展開する拠点との情報共有も進め、リスクの把握と削減行動計画作りにも積極的に取り組んでいきます。

## ● 生物多様性への配慮

生物多様性を担保する生態系の保全は、社会のサステナビリティにとっても、イノアックグループ事業の持続的発展にとっても重要です。

各種法規制の遵守はもちろん、原材料採取や製造拠点の事業運営での周囲への影響をしっかりと把握して総合的な施策を実施することが必要と考えています。

2023年度には「AQUEDUCT」なども利用し、製造拠点のアセスメントを実施、主要な影響評価を行いました。

## 社会 | 価値向上のために

## 研究開発への取り組み

## ● 基本的な考え方

イノアックグループは、高分子製品の研究開発に焦点を当て、ハイテク技術の開発において最も価値ある2つの資源である創造的な技術者および最先端の評価機器を活用して研究を行っています。グローバルな技術集団のリーダーとして、また原料メーカーおよび顧客とコラボレーションして、優れた付加価値をご提供します。

## ● 市場に併せた研究開発拠点

従来の日本発信型の技術開発では海外の圧倒的なスピードにはついていけないため、アメリカのR&D拠点の移設と拡充、中国にもR&D拠点の整備を進めます。リージョンごとの市場ニーズを的確にとらえ、現地原料を活用した配合設計、製品化を推進し、現地発信型の技術開発へ転換、グローバルな競争力の強化に努めていきます。

## ● イノベーションのマネジメントシステム

全社の技術部門の役割を明確にするとともに、市場動向、顧客ニーズ、自社シーズなどの情報を一元管理する部門を創設し、研究開発から製品化までをタイムリーに効率よく行う仕組みを開始しました。研究開発の推進においては、ステージゲートを設け、推進の可否やリソースの充当など、適宜判断できる仕組みを取り入れています。

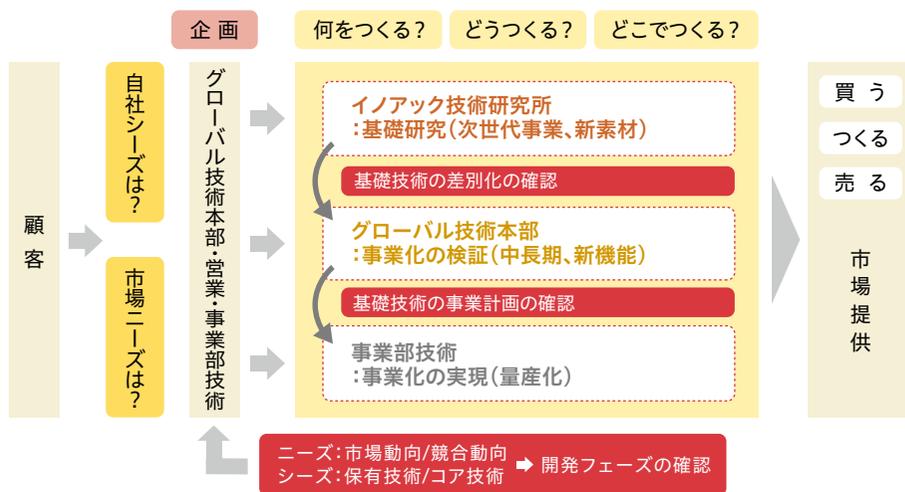


## ● 基盤となる強み

当社はウレタン、ゴム、プラスチックといった高性能材料の総合メーカーとして、長年の研究開発によって培われた技術やノウハウをもって、素材の配合、コンパウンドから設計および加工までを一貫して行える強みを持っています。

さらに、高性能材料と発泡、成形技術を組み合わせることによって、ニーズにマッチした多種多様な製品開発が行える機能を備えています。

## ● 研究開発から市場提供へのフロー



## ■ 研究・開発拠点



日本  
株式会社イノアック技術研究所(ITC)



中国  
SHANGHAI INOAC POLYMER PRODUCTS CO.,LTD.



北米  
INOAC USA, INC.



タイ  
INOAC (THAILAND) CO., LTD.

## ● 付加価値の創出

顧客からの要請に単に対応するだけでなく、対話を通じ、使用目的、用途、困りごとなどを確認しながら、さらなる機能向上、機能追加の提案を行っています。今後成長が期待できる電動車のバッテリー関連素材について、ウレタン、ゴム素材を軸とした素材開発に注力しています。これらの素材について具体的な用途例や、付加価値の提案にも努めています。



## イノアック技術研究所

既存の事業体の枠にとどまらない、新規性の高いテーマを選定し、未来を見据えたシーズ開発を推進しています。市場のニーズをさらに反映できる人材体制とするため、直近ではグローバル技術、事業部技術の人事ローテーションを積極的に取り入れ、顧客のニーズにより合致した基礎研究を推進する体制構築に着手しています。

## グローバル技術本部

さまざまな業界のニーズを吸い上げて、それに対応した素材、製品の研究開発を行っています。また、材料開発にとどまらず、モノづくり(工法開発)や、分析技術、評価技術の深耕にも取り組んでいます。さらには、これらの開発成果を知的財産として権利化するために、組織内に知的財産部を配しており、有形・無形の財産創出に貢献しています。一方で産学連携強化のため、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)に人材を派遣し、カーボンニュートラル社会の実現を見据えた地中熱パイプの広報活動に取り組んでいます。

## 研究開発への取り組み

### 知財戦略

製品の開発における特許の取り組みでは、年間300件の出願目標を設定しています。また重点製品の開発では、1つの製品に対して複数の特許を集中して保有し、競争力強化に取り組んでいます。

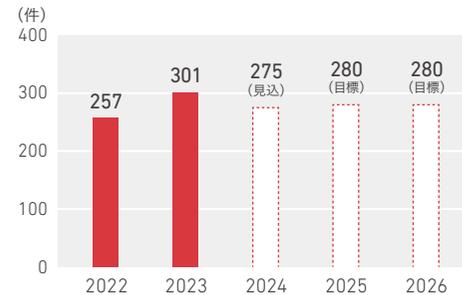
海外においては、現地でのニーズにスピード感をもった対応が求められるなかで、研究開発部門をグローバルに展開。それにとともに、特許出願を現地でスムーズに行えるサポート体制の整備を進めています。

### オープンイノベーション

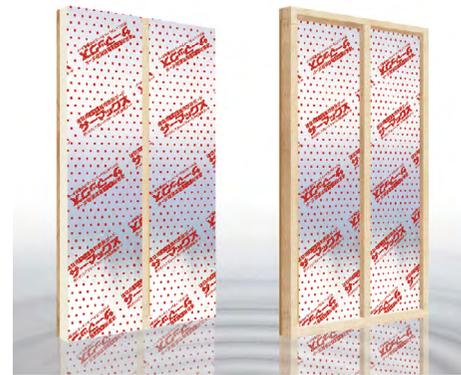
中長期的な基礎開発を中心に、大学などとの共同開発を進めています。より専門性の高い研究分野の新しい視点やメカニズムを吸収することで、開発力の強化につなげています。進捗管理については、年2回の社内報告会を行い、研究の進捗と方向性を確認しています。また、学会発表への参加により、社会に向けて研究成果の共有を図りながら、先端技術を深めています。

産学連携の一例として、住宅断熱メカニズムの解明研究があります。CO<sub>2</sub>削減、地球温暖化対策として、高性能な断熱材「サーマックス」が関心を集めています。この断熱材を住宅・工場へ広く展開するため、建物の構造からこの断熱材の優位性を探り、広く社会へ貢献する活動を進めています。また、工務店他施工業者様への採用事例のセミナーも東北地方を中心に開催しています。

### 年間特許出願件数



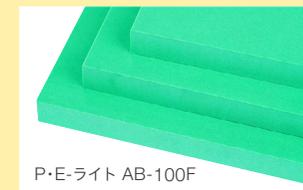
### 高性能断熱材「サーマックス」の開発



### 各事業分野での技術開発事例

#### バイオマスフォームの開発

植物由来の資源(バイオマス)を活用した製品の開発が進められています。植物由来原料を25%以上配合したオレフィンフォーム「P・E-ライト AB-100F」や、スマートフォンの防水シール材などに使用されるマイクロセルポリマーシート「SlimFlex」にもバイオマス認定製品があります。



P・E-ライト AB-100F



SlimFlex

#### 現場発泡ウレタン軽量盛土工法「フォームライトW」

傾斜地や低い地盤に土砂を盛り上げて平坦な土地をつくることを「盛土」といいます。その工事において、土の代わりに硬質ウレタンフォームを現場で発泡させて施工するのが、現場発泡ウレタン軽量盛土工法です。「フォームライトW」は山岳道路の拡幅工事をはじめ、道路の亀裂や崩れたのり面を直すなどインフラの補修でも数多くの実績があります。能登半島地震で被災した自動車専用道路の復旧工事にも採用されました。



## 品質向上への取り組み

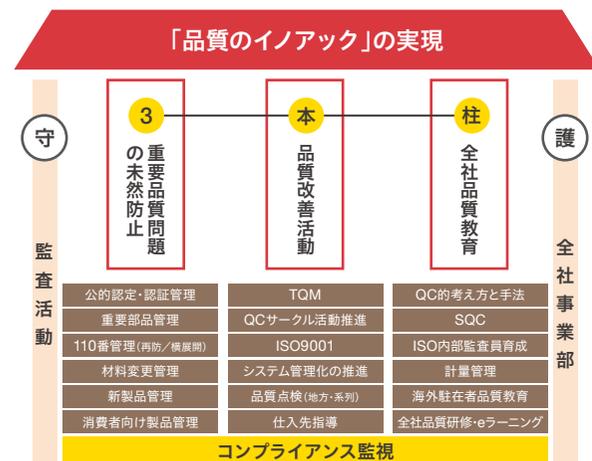
### ● 基本的な考え方

「品質方針」に基づき、顧客と品質を第一に考えたモノづくりを行っています。また、品質コンプライアンスの徹底と継続的改善による「うれしい品質づくり」に努めています。安心・安全な製品の品質を保証し、ご満足いただける商品やサービスを提供するために、ISO9001を基本とした総合的なマネジメントシステムを導入。顧客と連携して、さらなる品質向上に取り組んでいます。

#### 品質基本方針

1. お客様第一、品質第一のモノづくり
2. 法令や規制、お客様との取り決め遵守
3. 時代のニーズにこたえる継続的改善

### ● 品質保証の総合的なマネジメントシステム



当社は「品質のイノアック」を体現すべく ①重要品質問題の未然防止 ②品質改善活動 ③全社品質教育を3本柱にし、グローバルでの全社連係や、定期的な監査活動のもと、さまざまな標準化と継続的な仕組みのアップデートにより、絶えず品質を向上させています。

#### ① 重要品質問題の未然防止

##### ■ 公的認定・認証の管理

開発した製品を公的認定・認証に申請する際には、品質における管理体制を統括する品質保証本部に登録を行い、申請内容と製品・工程等に相違ないかを確認しています。また、登録後も当部署による定期的な監査を実施し、継続的遵守を担保しています。

##### ■ 重要部品の管理

機能性や安全性などにおいて、社会的責任がより高い重要部品は、品質保証本部にてリスト管理を行い、定期的に監査を実施することで、重大な品質リスクを未然に防止。必要に応じて品質や業務の改善も行っています。

##### ■ 品質110番制度

重要な品質問題は、拠点からのマイナス情報発信後24時間以内に経営者に伝達されるよう「品質110番制度」を制定しています。

情報配信後は、再発防止策の妥当性、ならびに定着状態と効果の確認を品質保証本部が実施します。

また翌年の重要部品対象とし、グローバル品質監査で

運用状況を確認します。

重要な品質問題とは ①国内、海外の法律、法規に抵触する不具合 ②保安部品の不具合 ③リコールに発展しそうな不具合 ④顧客の生産に支障をきたした不具合 ⑤品質保証責任者が重要問題と判断したものと定義しています。

##### ■ 材料変更の管理

重要な品質問題につながるリスクの高い材料変更では、技術本部、担当事業部門の技術・品証責任者が審議し、品質保証本部が社内承認をする仕組みを構築。顧客への変更提案において、事前に品質問題のリスクを排除する強固な管理体制を設けています。

##### ■ 新製品の管理

新技術・新材料・新プロセス・新用途のいずれかに該当する製品に対しては、社長をはじめとしたメンバーによる上市可否審査を実施して、重要な品質問題の未然防止に努めています。

#### 審査メンバー

社長、技術本部、品質保証本部、担当事業部門の技術・品証・営業の責任者・担当者

#### 審査内容

材質、製品特性、製品性能、構造、外観、類似品比較、製品安全性、製造の安全性、品質リスク

## 社会 | 価値向上のために

## 品質向上への取り組み

## ■ 消費者向け製品の管理

イノアックグループが設計、製造して、消費者へ直接提供する製品については、安心安全にご使用いただけるよう、企画の段階から品質保証本部主導の審査会を開催し、厳格なリスク検証に基づく承認を経て開発をスタートさせる仕組みを採用しています。

その後も量産移行後の点検に至るまで、担当事業部門と連携して品質を保証します。



## ② 品質改善活動

## ■ TQM活動の推進

社長のリーダーシップのもとに、すべての社員が、すべての部門で、すべての段階において、一丸となって顧客に満足いただける、「うれしい製品やサービス」の提供を目指しています。

人・仕事・仕組みを効果的かつ効率的に成長させて、全員参加を土台にした「人と組織と開発・製造力の向上」に邁進しています。

## ■ QCサークル活動

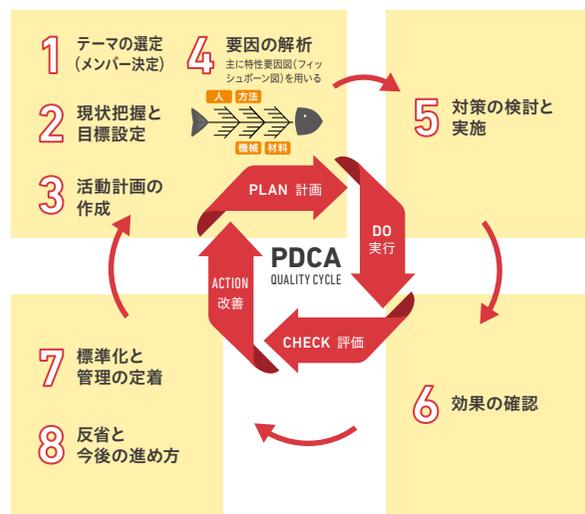
品質改善活動を自発的に小グループで行うQC(クオリティ・コントロール)サークル活動を1965年頃から

行っています。この活動を世界に広め、グループ全体の活動を共有するため、1985年から「QC・改善世界大会」をグローバル規模で開催しています。

2020年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一同に会した発表会は自粛していましたが、2023年からは海外チームの招待も再開し、2024年度も同様に、8か国12チームと国内4チームを加えた16チームで盛大に世界大会を開催しました。

大会では、日・英・中国語での同時通訳を行い、別途国内外の全拠点にビデオ配信することで、活動を推進する方々にQC改善の機運を高めてもらうとともに、この活動の推進を通して、顧客と社会に貢献できる人材づくりを引き続き進めていきます。

## QCサークル活動の流れ



## ③ 全社品質教育

## ■ 人材育成の取り組み

製造業にとって重要な品質における基礎知識の習得を新入社員の必須研修にしており、各階層ごとに必要なカリキュラムを設定して、社員の品質知識向上にも努めています。

2023年度からはeラーニングの取り組みも始め、時間を問わず同じ内容を繰り返し学習できる「品質ライブラリ」を公開しています。

さらに、QC検定の受験を奨励・支援し、会社全体のレベル向上を推進しています。

## ● グローバル品質監査

社会的信用と信頼の失墜につながる重要な品質問題の未然防止を目的として、国内外の生産拠点における重要品質部品や工程、ならびに品質マネジメントシステム全般を対象としたグローバル品質監査を毎年実施しています。

## 対象拠点

日本国内・タイ・ベトナム・インドネシア・スリランカ・台湾・北米・韓国・中国の各拠点

## 審査内容

樹脂・ゴム・ウレタン等、当社の主力素材と加工部品・マットレス製品などの生産工程および工場



## 社会 | 価値向上を実践するひとづくり

## 人権配慮

## ● 基本的な考え方

当社では、世界人権宣言や国際的に明示されている労働者の基本的な権利を尊重し、強制労働や児童労働などの人権侵害に加担せず、人権尊重に取り組んでいます。

## ● 人権尊重に関わる社長声明

当社社長が2023年8月1日全社員に向けて「人権尊重に関わる社長声明/トップステートメント」を発信しました。

「近年、社会課題において、気候変動だけでなく人権への配慮の必要性が高まっています。イノアックグループにおいても人権課題を整理して、業務の全般において取り組んでいくこととします。全社員が以下に記す人権尊重のための考え方に則り、しっかりと人権尊重を行う気概をもつことを願い、私自身率先して取り組みを推進していきます。」

## 人権尊重のための考え方

当社は、事業を行う過程で、直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、「国際人権章典」や「労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関 (ILO) 宣言」をはじめとする人権に関する国際的な規範を支持し、自らの事業活動に関わる全ての人の人権を尊重する責任を果します。

国籍、性別、年齢、信条、宗教、人種、民族、性的指向、障がい、配偶者や子の有無などを含むいかなる理由においても差別を認めず、パワーハラスメント、セクシュアルハラスメント、同調圧力等あらゆる形態のハラスメントや個人の尊厳を傷つける行為を許しません。また「強制労働」「児童労働」を禁止し、結社の自由を保障します。そして従業員が安全・健康な職場で勤務ができる環境を整えます。

2023年8月1日  
株式会社イノアックコーポレーション  
代表取締役社長 野村 泰

## 人材育成

## ● 基本的な考え方

当社では、企業存続における礎は多様な人材であるという理念を掲げています。一つの事業に特化することなく、多彩な製品、サービスをつくり出し、社会に貢献する企業体。これを構築する社員一人ひとりの個性を尊重し、迅速な決断と行動で、活気と個性に満ちたグローバル集団を形成しうることを目指します。

## ● 人材戦略としての仕組み充実

## 規程・制度改善委員会の発足

2024年4月、イノアック労働組合とともに「規程・制度改善委員会」を発足しました。

会社規程・制度について、制定当時の経緯と目的を把握したうえで、時代に即した内容に見直ししていく必要がある項目を挙げ、委員会組織として改善に取り組んでいます。

## 人事ポータルサイトの開設

従業員と人事部をつなぐコミュニケーションチャンネルとして「人事ポータルサイト」を開設しました。採用、教育、制度、福利厚生、法改正など、会社として伝えたい情報だけでなく、テーマに応じた問い合わせ先を公開することで従業員と会社、双方向のコミュニケーション活性化に取り組んでいます。

## ● 一人ひとりの「志と意欲」を引き出す人材開発

すべての社員が「自ら成長する」、「部下を育成する」ことを目指し、3年前に人事制度が変わりました。イノアックの人材開発では、その理念を浸透させ、一人ひとりの行動がより自発的・自律的に変化しスピーディーに成長できる組織となるために、大切にしていることがあります。それは、働く社員の仕事への『志・意欲』を引き出し、高めていくことです。期待される人材像に対して、一般職から経営幹部までが自身の役割とイノアックという

フィールドで「成し遂げたいこと」=『志』を重ね合わせ、能力を高め実践に移していける教育を設計しています。一人ひとりの仕事への意欲を高め、自律的に成長できる組織を目指します。

## ● グローバル人材育成の取り組み

さまざまなプログラムを通じてグローバル人材の育成に取り組んでいます。「海外トレーニー制度」は、海外でのOJTを通して、異文化の中で成果をあげるプロセスを体得することを目的としたプログラムです。多種多様な業種の若手社員が海外現地法人で研修し、価値観の違いや周りを巻き込むことの難しさなどに直面し、困難を乗り越えることで、大きな成長につながっています。

昨年度から、新たに海外駐在要員を対象とした「異文化コミュニケーション」研修を開始し「異文化」とは何かを体験することで「海外で働くこと」を身近に感じられるよう企画しています。また、海外赴任予定の社員には、海外駐在で必要となる専門知識（経理財務、法務、品質保証、安全など）を学べる講座を開設し、事前準備を整え円滑な赴任をサポートします。

## トレーニー経験社員の声

2023年9月末～翌9月中旬の1年間アメリカ ケンタッキー州の自動車部品製造工場、主に工場会計運用の研修を行いました。トレーニー研修では、日本と米国との会計運用方法の違いやそこから生まれるメリットやデメリット、また働き方や仕事の進め方を経験することができました。「グローバルな環境で仕事をする」部分をじかに学べ、今までの人生で最も濃い一年であったと感じています。海外で得た経験を日本でも共有していき、日本のグローバルレベルを上げていける人材になりたいと思います。

(株)イノアックスリムフレックス®  
総務経理課

山本 真



現地社員とオフィスにて

※トレーニー期間中は(株)ロジャースイノアックに在籍

## 社会 | 価値向上を実践するひとづくり

## ダイバーシティ&amp;インクルージョン

## ● 基本的な考え方

企業理念が示す「多くの個性ある木」こそがまさに多様性であり、当社の掲げる理念そのものがダイバーシティ&インクルージョンの基本方針の根底にあるものといえます。グローバル人材や女性社員の積極的な活用など、さまざまな人材の雇用・育成を通して、多様性を尊重した企業活動に努めています。

## ● グローバルな事業展開

当社では1930年代から海外進出を開始し、現在では13の国と地域に約70の海外工場・事業所を設けています。その過程の中で、多様な価値観や習慣、国民性を重視し、現地の人々と信頼関係を築くことで、強固なグローバルネットワークを構築しています。

## ● 女性活用推進プロジェクト

当社では女性社員の能力を引き出して、そのスキルや知識を業務で発揮してもらうために、積極的な活用を図るとともに、会社へ貢献できる環境づくりを進めています。女性活躍推進法に基づき策定した「一般事業主行動計画」では、現状の課題に対する具体的な数値を含めた3つの目標を掲げ、さまざまな部署における能力の発揮・キャリア形成を目指しています。

課題	目標
1 労働者に占める女性労働者の割合	20%以上まで引き上げ
2 営業職および技術職に占める女性社員の割合	営業職は15%、技術職は7%に引き上げ
3 管理職の年次有給取得率	一般職の年次有給取得率と同率の54.8%に引き上げ

## ワークライフバランスの推進

## ● 基本的な考え方

社員が働きやすい環境づくり、女性の活躍推進を目的に、仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいます。

## ● 年次有給休暇取得率の向上

2021年度から会社目標を公表し、政府目標の「年休取得率70%以上」達成に向けて取り組んでいます。

## 会社目標

当年度付与日数の50%以上を全社員が取得する

## 取り組み内容

年休計画表の作成、毎月上旬に必要取得日数の連絡、イントラネットに実績の掲載

## 両立支援制度一覧(施行年)

- 配偶者出産休暇(1980年以前)
- フレックスタイム制実施(1990年)<sup>※1</sup>
- 介護休業規程(1990年)
- ハッピーホリデー休暇(1991年)
- 育児休業規程(1992年)
- 母性健康管理の措置に関する規程(1998年)
- 半日有給休暇取得制度(2000年)
- ファミリーサポートホリデー休暇(2005年)
- 子の看護のための休暇(2005年)
- 育児休業規程改訂(休業期間延長)(2005年)
- 育児短時間勤務(2008年)<sup>※2</sup>
- 介護休暇(2010年)
- テレワーク勤務規程(2020年)

※1 フレックスタイムは2020年4月1日から「コアタイムあり」から「コアタイムなし」に変更  
 ※2 育児短時間勤務の期間は2022年7月1日から、子が中学校就学始期に達する(小学校6年生を終了する3月31日)までとし、暦月単位で取得可能に変更

## 健康経営

## ● 基本的な考え方

これまで健康管理は個人の責任とらえられていましたが、社員が心身ともに健康的に働けるよう環境を整備することは企業の責任であるという考えが浸透してきました。職場環境の改善や健康増進により、社員一人ひとりの仕事へのモチベーションも高まり、職場全体の活性化にもつながります。

企業、社員、健康保険組合との三位一体でしっかり取り組むことで、健康リスクの低減および病気、けがを未然予防し、企業による経営と社員の健康管理の両立を目指します。

## ● 健康増進の取り組み

会社全体では、月別重点実施事項を盛り込んだ年間計画表を策定しています。各事業所では、推進体制を整備して「心の健康づくり計画」を策定、実施しています。また、健康保険組合と連携して3つの柱をもとにした社員の健康増進に取り組んでいます。

## 3つの柱

## 病気の未然予防

社員一人ひとりがより長く健康に活躍するためには、病気になってからの対応だけでなく、日ごろから病気の未然予防が大切です。人間ドック費用補助、メンタルヘルス講習、ストレスチェックなど、健康づくりへの支援を行っています。

## 特定健診

生活習慣病予防のための保健指導を必要とする人を選び出すための健診です。健診項目には、内臓脂肪の蓄積状態をみるために腹囲の計測が追加されるなど、特定保健指導の対象者を的確に抽出するための検査項目が導入されています。

## 特定保健指導

特定健診によって選び出された対象者は、医師や保健師、管理栄養士らの指導のもとに行動計画を作成し、生活習慣改善に取り組みます。

## 社会 | 価値向上を実践するひとづくり

## 安全衛生・防災

## 安全の理念と基本方針

## 理念

社員が健康で、安全かつ快適な中で業務を遂行できる職場づくりに基づき、全ての行動において安全衛生・防災を優先する。

## 基本方針

- 1 職場環境を改善し危険源を除去・低減
- 2 従業員全員の安全・防災意識の向上
- 3 労働安全衛生に関する諸法令の遵守

当社では「安全・防災は全てに優先する」を行動で示し、危険を予知して「止める、呼ぶ、待つ」の実践を定着させる。リスクアセスメントを行い危険源の除去・低減を図る。また過去の災害に学んだ教訓を月度重点実施事項として年間活動計画を定め、点検・教育訓練の繰り返しと安全衛生防災活動評価による弱点の改善で、全拠点の安全衛生防災管理レベルの向上を図っています。

KPI項目	適応範囲	2022年実績	2023年実績
社員の労働災害全発生件数 ▶前年度発生件数比▲30%	国内	20件	17件
	海外	21件	23件
全災害度数率	国内	1.53	1.27
休業災害度数率	国内	0.46	0.52
社員の重大労働災害 ▶発生件数0件	国内	0件	0件
	海外	0件	0件
事業所の火災 ▶発生件数0件	国内	1件	0件
	海外	0件	0件
職場の作業環境 第III管理区分のゼロ化	国内	12職場	6職場

## 全社安全衛生委員会の開催

役員自らが行動し、全員参加で取り組む安全活動として、全社の安全・衛生・防災意識の向上と、組織風土づくりおよび再発防止を図る安全集会を開催しています。

- 中央安全衛生委員会……………年4回
- 役員による現場点検……………年2回
- 安全衛生実務担当者会議……………年4回
- 安全総会……………年1回
- 外部講師による安全講演会の開催……………年1回
- 各拠点安全衛生委員会……………毎月



役員による安全巡視

## 安全道場で安全な人づくり

安全道場は15の体感機で「目で見て、耳で聴き、体で感じる」安全体感を経験することにより、社員が作業中に起こりうる「危険を安全に」を体感してもらいます。それにより危険感受性を高め、危険予知能力を磨き、確実に安全行動に取り組む姿勢を身につけ、災害ゼロを達成できる職場づくりに取り組んでいます。

VR(バーチャルリアリティ)システムを導入し、各拠点にVR装置を持ち込んだの出張安全体感教育を実施。また電気を原因とした労働災害を防止するため、低圧電気取り扱い教育を追加し、保全作業員以外の社員にも参加をオープンにしています。



安全道場

- 1 電気設備の点検測定器の使い方
- 2 電気配線・自己保持回路
- 3 CPR/AED実習

・テスター・検電器  
・クランプメーター

## 衛生環境向上の取り組み

管理監督者が率先垂範するよう、取り組みを通して知識とスキルの向上を図っています。

- 分煙化の徹底として、屋外喫煙室を設置
- 環境対策として路面温度の低減やサーマックスを活用した天井のカバー工法、加熱炉の断熱などの工場内温度の低下
- 産業医、健康保険組合による学習・指導会を開催
- 熱中症・暑熱対策やWBGTの見える化、計画的な職場環境改善
- 作業環境の改善、管理区分III(騒音、有機・特定化学物質など)職場のゼロ化
- 各種ウイルス感染症対策

遮熱性舗装  
(赤外線を反射して路面温度を下げる)

加熱炉の断熱



屋根カバー工法

## 防災活動

危機管理規定に基づき行動し、自然災害などによる被害を最小限にとどめ、的確な初動対応と早期復旧を図ります。

- 大規模地震災害
  - ・建屋と設備の地震減災対策
  - ・地震発生時の安全防災備品と備蓄品の備え
  - ・地震災害発生後の対応
- 火災・風雨被害対策
  - ・生産現場の防災・防爆
  - ・風雨被害対応の備えと体制の確立
  - ・気象情報配信システムの活用
- 防災教育
  - ・防災館の活用と出張防災教育の実施
- 地域との防災協定
  - ・災害発生時における水やマットレスなどの提供
  - ・地域と共同して防災イベントの開催、防災訓練への参加



防災館



消火訓練

## サプライチェーンマネジメント

グローバルでの環境問題、人権・労働問題への対応、地球温暖化に対するカーボンニュートラルへの取り組みや自然災害に対するリスク管理と持続可能な社会の実現に向け、企業の求められる活動も変化しています。

このような環境変化を受け、「調達基本方針」の改訂を行いました。また「サプライヤーCSRガイドライン」が2024年10月に取締役会で承認されました。こちらをすべてのお取引先様に周知することで、サプライチェーン全体としてCSRに取り組むよう進めています。

### 調達基本方針

- |                               |                |
|-------------------------------|----------------|
| ① 公平・公正で誠実な調達活動の推進            | ④ 人権・労働への配慮    |
| ② お取引先様との相互信頼に基づいたパートナーシップの構築 | ⑤ 環境に配慮した調達活動  |
| ③ 安全・品質の実現                    | ⑥ コンプライアンス遵守   |
|                               | ⑦ 適正な情報管理への配慮  |
|                               | ⑧ グローバル最適調達の推進 |

### ① サプライヤーとのパートナーシップ強化

調達活動において、品質や価格などだけではなく、労働条件の改善や環境配慮への取り組みなどをお取引先様と共同で行うことがより重要となってきています。「サプライヤーCSRガイドライン」を通じて、従来にも増して相互信頼に基づいたパートナーとして相互繁栄につながる活動へのご理解と実践をお願いしていきます。

### ② 具体的な取り組み

お取引先様64社とともにイノアック協友会を通じて、さ

まざまな活動に取り組んでいます。事業継続力強化計画や生活習慣病予防などの講演会を通じた啓蒙活動や現場の困りごとを吸い上げ対策する活動、工程改善活動などお取引先様と一体となり、活動を推進しています。また、改善成果を発表するQC選抜大会への参画など、人材育成を図りながら相互の企業レベル向上と共存共栄に努めています。

### 品質困りごと対策会

製品を見ながらお取引先様と適正な品質を取り決める活動を定期的に開催しています。



### サプライヤー表彰

年間を通して貢献いただいたお取引先様の表彰を行っています。



### ③ 持続可能な調達活動の推進

我々の生活や環境に優しい製品・商品を提供するため、「イノアック グリーン調達基準」を定めています。定期的

に更新し、含有化学物質の調査を実施することで環境負荷の低いモノづくりに取り組んでいます。また、カーボンニュートラルにつながる調達活動の一環として、お取引先様を訪問し省エネ対策提案を実施しています。さらに、紛争鉱物や人権侵害による生産品などを排除するための調査などに取り組んでいます。

### ④ コンプライアンスの遵守

お取引先様と締結する基本取引契約書の中に、知的財産権の侵害防止、グリーン調達の適合、反社会的勢力との関係排除を明記することで関連法令の遵守を行っています。

また、「下請法(下請代金支払等遅延防止法)」につきましては、お取引先様リストを作成し、対象となるお取引先様との取引条件の可視化を実施することで遵守を徹底しています。購買業務に従事する部門では、下請法講習会の受講や定期的な社内教育、法務部門による社内監査を実施することで継続的に適切な対応ができる仕組みづくりを進めています。

### 取引条件の可視化

#### 新規 お取引先様

取引開始時に、下請法が適用される取引に該当するかを確認。取引開始前に「お支払い条件(相殺条件を含む)・取引基本契約書・単価決定通知書」の取り交わしを行い、各下請お取引先様との取り交わし状況が一元管理できるリストを作成。

#### 継続 お取引先様

取引内容の変更ともなう下請法該当取引事象が発生する可能性があるため、定期的に取引状況の確認によりリストの更新を行うことで、下請法遵守の維持管理を図る。

## 国内外の取り組み

イノアックグループでは、文化支援・人材育成を中心とした社会貢献活動を通じて、人々の交流の場を設け、そこに生まれる心の交流の活性化をサポートしています。

### ① 災害支援活動

イノアックグループでは有事の際に支援物資を寄贈しています。避難所で過ごす時間を少しでも快適に過ごせるよう、グループで扱うマットレスなどの現物寄贈や公的機関を通じた寄付などを行っています。「令和6年能登半島地震」に際してはグループ各社の在庫などから多くのマットレスなどを送りました。



### ② 芸術文化支援活動

イノアックコーポレーションでは、芸術文化支援として多くの人が音楽に触れ合う機会をもてるよう名古屋フィルハーモニー交響楽団に協賛を続けています。また、カラーフォームショップ大崎店でのアフタヌーンコンサートや若手音楽家の支援として入場料無料のヤングアーティストコンサートを開催しています。



### ③ 社会教育支援活動

イノアックグループでは各地の拠点において地域の課題に寄り添った貢献活動を行っています。メキシコINOAC SISTEMAS EXTERIORES S.A. de C.V.では、児童の教育機会の支援として、学用品等の寄贈を行っています。国内では、「CBCこども音楽コンクール」や愛知県工業高校生ロボット競技大会などへ協賛を行いました。



活動分類	概要
災害支援	能登半島地震被災地に対し、ウレタン製マットレス、保温効果のあるポリエチレンシート、まくらなどを寄贈【イノアックコーポレーション・東日本イノアック】
	岐阜県大垣市と災害時における物資の供給に関して協定を締結。(大規模災害が発生、または発生のおそれがある場合において、避難所生活に必要なウレタンマットレスなどの物資を大垣市に供給)【イノアックコーポレーション】
	山梨県市川三郷町と災害時における物資の供給に関して協定を締結。(大規模災害が発生、または発生のおそれがある場合において、避難所生活に必要なウレタンマットレスなどの物資を市川三郷町に供給)【東日本イノアック】
地域貢献	埼玉県羽生市地域子育て支援拠点「こどもひろば」にマットを提供【テクノフォームジャパン】
	オートバイのツーリングイベント(女子会)を白馬村で開催【井上ゴム工業株式会社】
	自転車のグラベルイベント(初心者向けイベント)を白馬村で開催【井上ゴム工業株式会社】
	白馬八方尾根スキー場で行われたモーグルレッスンイベントに協賛【イノアックコーポレーション】

活動分類	概要
社会教育支援 (社会教育支援、職場体験)	地域の子どもたちに復学のための学用品や遊具などを寄付【INOAC SISTEMAS EXTERIORES S.A. de C.V. メキシコ】
	子どもから大人まで楽しめるワークショップの材料としてウレタン素材の端材を目黒区美術館(東京都目黒区)とメグロアソビ冒険隊へ提供【イノアックコーポレーション】
	株式会社CBCラジオ「CBCこども音楽コンクール」の番組協賛【イノアックコーポレーション】 愛知県工業高校生ロボット競技大会へ協賛【イノアックコーポレーション】
芸術文化支援	カラーフォームショップ大崎店にてイノアックアフタヌーンコンサートを隔月開催【イノアックリビング】
	長年にわたり「名古屋フィルハーモニー交響楽団」と「東京交響楽団」へ協賛【イノアックコーポレーション】
保健衛生・医療・健康	ホリデーディナーの収益をトロント小児病院に寄付【INOAC EXTERIOR SYSTEMS, INC. カナダ】
	テネシー州リビングストン地域の移動診療所の支援【INOAC EXTERIOR SYSTEMS, LLC. アメリカ】
環境保全	グループ各地の拠点近辺などにおける清掃活動を実施

## ガバナンス

## コーポレートガバナンス

## ● 基本的な考え方

企業業績・企業価値・社会的信用性を高めるために、コーポレートガバナンス強化を重要な経営課題と位置づけています。

## ● コーポレートガバナンス体制

当社は、8名で構成される取締役会において、経営に関する重要な意思決定を行っています。各取締役より職務執行状況、財政状態および経営成績などの報告を受け、業務執行の監視・監督にあたっています。また、経営に関

する監督責任と執行責任を分離するため、執行役員制度を導入しています。取締役会より執行権限を移譲された執行役員が、事業部・グループ会社・主要職能組織長として、意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図り、重要な業務執行への対応を行っています。

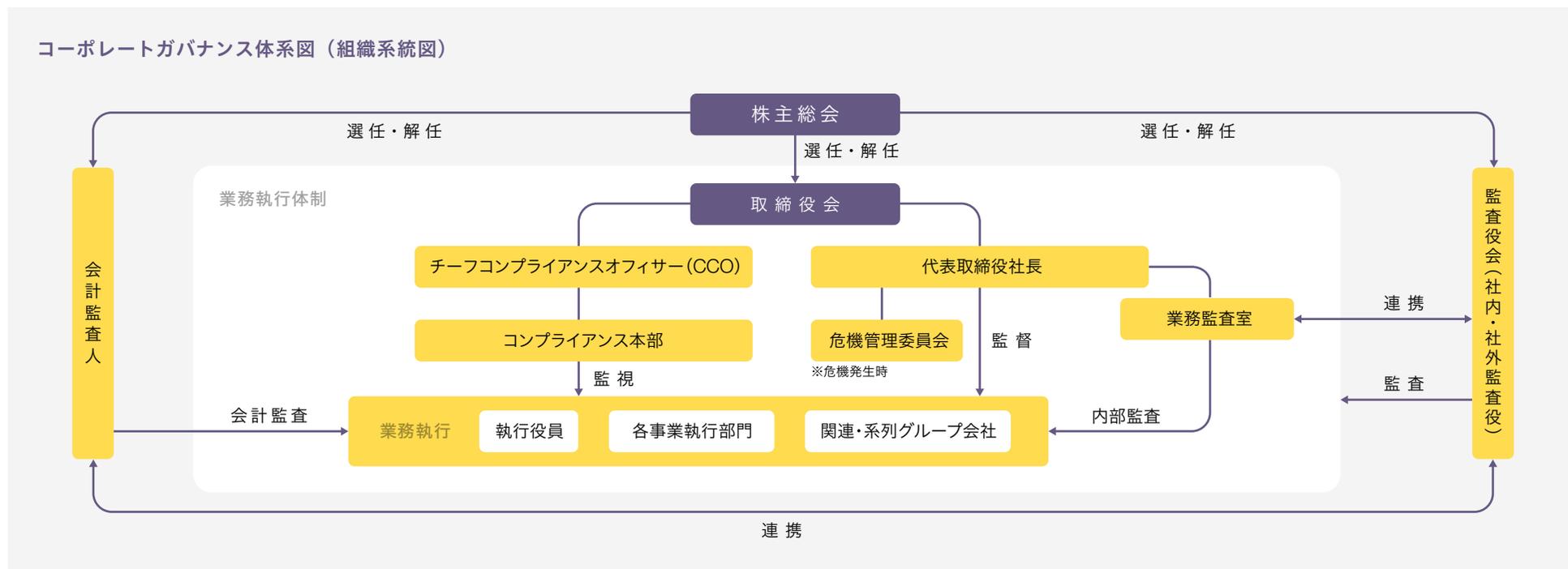
監査機能としては、社外監査役2名を含む3名で構成される監査役会を設置しています。監査役は取締役会など社内の重要な諸会議に出席する他、業務執行状況の聴取を通じて、取締役の職務の執行状況を監査しています。

## ● 内部統制システム

当社は、職務の執行内容を法令および定款に適合させるため、さまざまな施策を行っています。情報管理として、各文書の保管部署・期間を文書管理規程に沿って定めています。また、リスク管理においては経営執行会議でマネジメントしており、危機発生時には危機管理委員会を開催しています。

関連・系列会社においては、「関連会社管理規程」を制定し、業務運営ルールを明確にするとともに、必要に応じて会計監査および業務監査を実施しています。

コーポレートガバナンス体系図（組織系統図）



## ガバナンス

## コンプライアンス

## ● 基本的な考え方

企業としての社会的責任を果たし、顧客の期待に応えていくためには、法令遵守はもちろんのこと、社員が企業の一員としての社会的責任を意識することが必要不可欠です。当社では「コンプライアンス遵守」を会社方針と定め、法令を守ることにとどまらず、社員一人ひとりが高い倫理観をもって行動することで、コンプライアンス徹底に努めています。

## ● 推進体制

当社では、取締役および執行役員から独立した権限を有するチーフコンプライアンスオフィサー (CCO) がコンプライアンス本部を統括し、コンプライアンスに関わる事項の施策・実施を行っています。

CCOを中心にコンプライアンス本部と一体となって、グローバル全体での連携強化を図りつつ、コンプライアンス活動を推進しています。

コンプライアンス違反が生じた場合、CCOが対応責任者としてコンプライアンス本部を指揮して対応にあたります。その影響度に応じ、CCOは本社に対策委員会を設置し、一元的に対応します。

コンプライアンス組織を定めたプログラムは、CCOによる定期的な見直しによって、継続的な改善を図っています。また、コンプライアンス本部において、年1回のグローバルコンプライアンス評価会議を開催しています。

## コンプライアンス組織図



## 具体的な取り組み

## ※ コンプライアンス研修の実施

全社員の節目となる定期研修(新入社員研修、中途社員研修、海外赴任候補者研修、基幹職研修など)でコンプライアンスパートを設けています。また、各地域・事業部の特性に応じてコンプライアンス研修を個別に実施しています。

## ※ 内部通報制度の整備

コンプライアンス違反またはその恐れがある事象について、イノアックグループに従事するすべての者が相談または通報することができる、内部通報窓口を設置しています。通報窓口は、内部(コンプライアンス本部)および外部(法律事務所)に設置しています。

## ※ まもるPJの推進

内部通報制度の適切な利用促進を図り、より健全な経営風土を生み出すため、「まもる/Mamoru」を合言葉とした取り組みを推進しています。

## ① ルールをまもる ② 仲間をまもる ③ 自分をまもる

「まもる/Mamoru」はそのまま経営トップからのメッセージ、コンプライアンスポリシーや窓口とともに世界中のイノアック拠点に届けられており、イノアックグループの構成員がより気軽に声を上げやすい環境を整えています。

## ● 情報セキュリティ委員会の設立

当社では「機密管理規定」に基づいた適正な運用と管理のさらなる強化を目的として、2022年9月に情報セキュリティ委員会を設立しました。サイバーインシデント発生時の低減および対応措置の整備を進めつつ、グローバル全体への展開を目指して活動しています。

## 活動内容

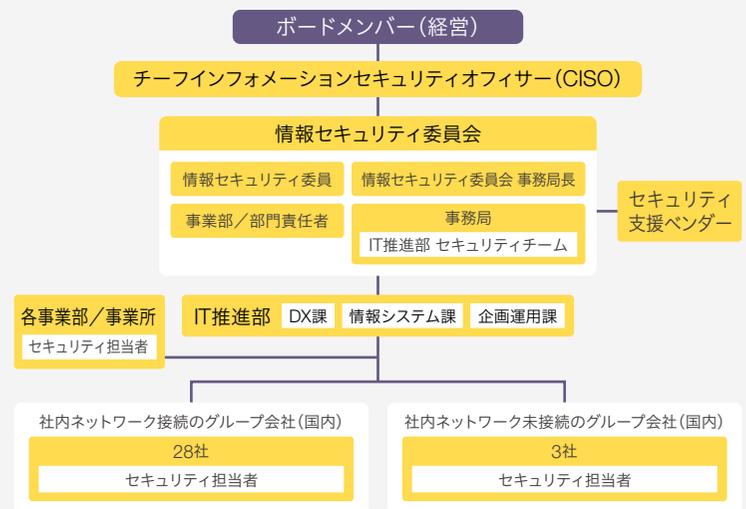
- サイバーインシデント発生時の低減に向けた活動
- サイバーインシデント発生時に迅速な対応が行えるルール構築と訓練
- サイバーセキュリティガイドラインV2.0ならびに顧客が定める各種ガイドラインへの対応
- イノアックサプライチェーンを含めたセキュリティ強化活動の推進

## 活動目標

※2024年2月から2025年2月までのセキュリティ専門ベンダー契約期間内

- 2024年3月までにサイバーセキュリティガイドラインV2.0の「LV1、LV2」項目について90%達成するための課題、対応方法、対応主管部署、納期、投資額(必要に応じて)を可視化
- サイバーインシデント発生時の対応フローを基本とした訓練実施
- セキュリティ啓蒙活動(e-ラーニング、説明会)

## 情報セキュリティ管理体制(平時)



## ESGデータ集

## 環境 Environment

(国内事業所14拠点と関連(系列含む)27拠点)

		2020	2021	2022	2023	2024年度目標値	2030年度目標値
エネルギー使用量 組織内における非再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量(ジュールまたはその倍数単位(メガ、ギガなど)による)	電力購入(千KWh)	120,162	124,521	116,324	117,133	109,531	73,233
	重油(kL)	2,891	2,997	2,792	2,049	1,916	1,219
	都市ガス(千m <sup>3</sup> N)	800	945	845	890	832	529
	石油など(千kg)	6,036	6,570	6,030	6,230	5,826	3,706
GHG排出量(t-CO <sub>2</sub> )	スコープ1+2	81,337	83,876	74,355	73,394	68,631	45,887
	スコープ1	27,726	29,939	27,539	26,229	24,527	15,602
	スコープ2	53,611	53,937	46,816	47,165	44,104	30,285
汚染物質排出量	揮発性有機化合物(VOC)(t/生産金額(百万円))	1.67	1.85	2.02	1.82	1.81	—
取水量(千m <sup>3</sup> )	合計	2,377	2,392	2,266	2,284	2,236	*2,153
	上水	224	234	219	233	—	—
	工業用水	182	168	146	141	—	—
	地下水	1,971	1,990	1,901	1,910	—	—
廃棄物	有害廃棄物(産業廃棄物)発生量(t)	9,671	10,814	9,894	10,055	9,500	8,400
PRTR(排出量+移動量)(t/生産金額(百万円))		2.08	2.20	2.26	2.13	2.09	—
環境法規制	法規制違反件数(件)	0	0	0	0	0	0

※目標値は全取水量のみ

## ESGデータ集

## 社会 Social

(単体)

		2020	2021	2022	2023	2024年度目標	
従業員関連データ	従業員数(人) ※2024年4月1日時点	合計	1,903	1,889	1,884	1,812	—
		男性	1,642	1,611	1,590	1,534	—
		女性	261	278	294	278	—
		外国籍	—	—	—	13	—
	新卒採用者数(人) ※2023年4月1日～2024年3月31日	合計	52	46	52	47	—
		男性	31	31	36	31	—
		女性	21	15	16	15	—
		外国籍	0	0	0	1	—
	平均年齢(歳) ※2024年4月1日時点	合計	41.6	41.6	41.6	42	—
		男性	42.3	42.3	42.3	42.5	—
		女性	37.8	37.7	37.9	39	—
	退職者数(人) ※2023年4月1日～2024年3月31日		114	113	153	119	—
	離職率(%) ※2023年4月1日～2024年3月31日		6	6	8.1	6.6	—
		内自己都合退職者数(人)	—	—	—	52	—
実労働時間数(千時間)従業員のみ ※2023年4月1日～2024年3月31日		3,760	3,699	3,645	3,699	—	
男女の賃金の差異(%) (男性の賃金に対する女性の賃金の割合)	合計	—	—	79.8	79.4	—	
	正社員	—	—	80.7	79.6	—	
	非正社員	—	—	81.5	85.4	—	

## ESGデータ集

## 社会 Social

(単体)

		2020	2021	2022	2023	2024年度目標
人材育成	総研修時間(時間)	18,608	26,023	25,018	24,502	22,182
	受講者数(人)	1,442	1,971	1,390	1,116	1,116
	年間平均研修時間(時間)	12.9	13.2	18.1	22	20
ダイバーシティの推進	女性従業員比率(%)	14	15	16	15	—
	男性管理職社員数(人)	273	289	286	285	—
	女性管理職社員数(人)	9	13	13	13	—
	管理職に占める女性比率(%)	3.2	4.3	4.3	4.4	—
	障がい者社員数(人)	28	28	30	41	—
	障がい者雇用率(%)	2.3	2.4	2.5	2.21	—
	働きやすい職場づくり	育児休業取得者(人) ※2023年4月1日～2024年3月31日	合計 11	9	5	17
		男性 1	4	0	11	—
		女性 10	5	5	6	—
育児休業などの育児目的休暇の取得割合(%)		—	—	89.6	75.8	—
有給休暇の取得率(%)		52.9	64.2	70.6	68.4	50%以上
1人あたりの平均月間残業時間 <sup>※1</sup> (時間) ※2023年4月1日～2024年3月31日		19.5	19.7	18.6	17.5	—
労働組合の加入状況	労働組合の組合員数(人) 準組合員含む	1,491	1,481	1,486	1,460	—
労働安全衛生	社員の労働災害全発生件数(国内)	25	22	20	17	12
	社員の労働災害全発生件数(海外)	13	16	21	23	12
	全労働災害度数率(国内)	2.15	1.68	1.53	1.27	0.92
	労働災害休業度数率 <sup>※2</sup> (国内)	0.44	0.76	0.46	0.52	0.31
	社員の重大労働災害(国内)(件)	0	0	0	0	0
	社員の重大労働災害(海外)(件)	0	0	0	0	0
	事業所の火災(国内)(件)	0	0	1	0	0
	事業所の火災(海外)(件)	0	0	0	0	0
	職場の作業環境(第III管理区分のゼロ化)(件)	2	6	12	6	0
	ヒヤリハット・KY提案数 <sup>※3</sup> (件)	0.17	0.26	0.40	0.62	0.70
	健康診断の受診率(%)	100	100	100	99.4	100
	ストレスチェック受検率(%)	93.9	94.6	97	96.2	98
社会貢献	社会貢献件数 <sup>※4</sup>	6	6	14	32	32

※1 時間外手当対象+休出+法定休出 出勤日数0の月は除外 対象者一般職(ST～AM)、営業・技術手当者は実残業時間数

※2 労働災害休業件数÷実労働時間数×1,000,000

※3 1月あたりの件数÷1人

※4 イノアックコーポレーション単体で寄付を伴う件数

## ESGデータ集

## ガバナンス Governance

(単体)

		2020	2021	2022	2023	2024年度目標
取締役会	取締役人数(人)	9	8	8	8	—
コンプライアンス	コンプライアンス研修の受講者数(人)	271	361	650	271	900
情報セキュリティ	情報セキュリティ研修の受講者数(人)	57	1,034	53	1,100	*1,087
	重大インシデント件数(件)	0	0	0	0	0
特許	国内の特許出願件数(件)	162	236	257	301	275
	国内の特許数(件)	1,033	1,047	1,052	1,159	1,260

※2024年の目標値ではなく、2024年10月15日時点の受講実績

## 会社概要

- ▶ **社名** 株式会社イノアックコーポレーション INOAC CORPORATION
- ▶ **資本金** 7億2,000万円
- ▶ **代表** 取締役会長 井上 聡一 代表取締役社長 野村 泰
- ▶ **本社** 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号
- ▶ **本社(東京)** 〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号 大崎ウエストシティビル4階
- ▶ **設立** 1954年(昭和29年)
- ▶ **従業員数** 1,874名(2024年4月1日現在)
- ▶ **売上高** 1,978億円(2023年12月)

### ▶ 事業内容

#### 素材が拓く、快適な暮らし。 INOAC Materials, Comfortable Life

イノアックの事業は大きく5つに分類されます。  
取り扱う製品や市場も多岐にわたり、  
多様なフィールドで人々の快適な生活を支えています。

#### 1 高機能材料事業

生活用品からIT機器・建築資材に至るまで、さまざまなフィールドで暮らしを支えています。



#### 2 自動車関連事業

内外装製品・機能製品・シート関連製品を供給し、自動車の安全・快適の実現に貢献します。



#### 3 iRCタイヤ

イノアックグループ創業部門であり、二輪車用タイヤ、チューブの専門メーカーです。



#### 4 住環境事業

主に住宅・建築・土木・環境関連の事業を展開しています。



#### 5 寝具・家具事業

快適な眠りを提供する寝具“カラーフォーム”や、福祉用具“すみれ”、家具“HUKLA”を展開しています。



事業別国内売上高構成比 ■自動車 ■高機能材料

